

(1)整理番号	1
(2)区分番号	1
(3)科目種別	大学院地域社会研究科
(4)授業科目名〔英文名〕	地域政策形成論[Regional Policymaking]
(5)対象学年	1年次
(6)必修・選択	必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	調整の上、決定
(10)担当教員(所属)	土井 良浩 (地域社会研究科)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル5
(14)授業としての具体的な到達目標	○市民主体の地域政策形成の史的展開や仕組みなどの基礎知識を習得する。 ○具体的事例を通じて、今後の地域政策形成を考える上で必要となる視点と手法を獲得する。
(15)授業の概要	1960年代の市民・住民運動の勃興以来、計画策定への市民参加、NPOセクターの成長、市民と行政による協働事業の推進など、地域政策は中央集権下で定められるものから、市民自らの生活基盤やニーズに基づき形成・実行され得るものに変容を遂げた。この授業では、我が国のコミュニティ政策や政策策定への市民参加、市民・行政の協働、住民自治への流れを概観し、具体的事例を交えながら市民主体の地域政策形成に必要な視点や手法を学び、今後のあり方を展望する。
(16)授業の内容予定	第1回はイントロダクション、第2回～は毎回、前半部分では講義を行い後半部分で演習を行う。 授業の進め方は、履修者と相談の上、15回で終了するよう決定する。 〈講義〉 我が国のコミュニティ政策や政策策定への市民参加、市民・行政の協働、住民自治への流れについて、以下の項目に基づいて講義を行う。 ・江戸～明治の移行期における「公共」の誕生【幕末～明治初期】 ・住民参加の萌芽とコミュニティ政策【1960～70年代】 ・計画策定への住民参加とまちづくりワークショップの普及【1960, 70+1980～90年頃】 ・新しい公共論とNPOセクターの台頭 【1995～2000年】 ・市民協働・市民自治の時代 【1990年代後半～現在】 〈演習〉 市民主体の地域づくりに必要なファシリテーションの考え方についての講義や具体的なワークショップの手法についての解説の後、実際に手法を体験する。 ・アイスブレイク、チームビルディング ・ファシリテーショングラフィック(基礎編) ・ポストイットトーク(ブレーンストーミング+KJ法) ・地域活性化のためのプロジェクトづくり ※この他、6月半ばに一度、弘前市の市民活動助成制度の公開審査会の見学を行う。
(17)準備学習(予習・	授業に関連するテーマについて調査・報告する課題を出す予定

復習) 等の内容	
(18)学問分野 1(主学問分野)	建築学関連
(18)学問分野 2(副学問分野)	-
(18)学問分野 3(副学問分野)	-
(20)教材・教科書	毎回、講義・演習解説のための資料を配付する。
(21)参考文献	授業の中で紹介する。 ※教員の研究室にて閲覧可能
(22)成績評価方法及び採点基準	調査報告とレポートの充実度による。 <レポートの課題内容（予定）> 現在自分が住んでいる地域、以前住んでいた地域、現在自分が何らかの地域づくり活動に参画している地域のいずれかについて、 (1)「地域の概要」をまとめ、 (2)「これまでの地域政策や地域づくり」の歴史的経緯を整理し、 (3)当該地域における現在の課題との関係から「これまでの地域政策や地域づくりの批判的考察」を行い、 (4)「課題解決のために求められる今後の地域づくりの条件や方法」について論じる
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	講義＋演習形式
(25)留意点・予備知識	特になし
(26)オフィスアワー	定常的な日時設定はしない。 面会が必要であれば、Eメールで連絡すること
(27)メールアドレス・HPアドレス	Eメールアドレス： doi★hirosaki-u.ac.jp ★のところを“アットマーク”に変更してください。
(28)その他	・この授業は、地域社会研究科の必修科目だが、受講する学生が様々な学問分野を修めてきた人たちであることを念頭に置き、専門にかかわらず理解可能となるように構成している。 ・地域をどのように認識し、そして地域にどのように関与するか、受講生が考え行動するための足がかりとなることを目指している。

地域社会研究科

(1)整理番号	2
(2)区分番号	2
(3)科目種別	大学院地域社会研究科
(4)授業科目名〔英文名〕	調査方法論 [Methodology of Field Survey]
(5)対象学年	2 年次
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	9・10時限（調整の上、決定）
(10)担当教員（所属）	平井 太郎（地域社会研究科）
(11)地域志向科目	地域志向科目
(12)難易度（レベル）	レベル5
(14)授業としての具体的な到達目標	○青森県を中心とした地域を素材として、持続可能性の軸とした課題探究能力を養う。 ○地域社会の実態を多面的に把握する多様な調査方法論についての知識を習得する。 ○方法論的な知識を土台として、政策や実践を企画・立案する能力を養う。
(15)授業の概要	受講者それぞれの研究成果をもとに、青森県をはじめとする条件不利地域の社会変革に寄与する方法論と知見を交換する。
(16)授業の内容予定	第1に地域社会にアプローチするための基本文献を全員で購読して討議を行う。 第2にそれぞれの研究成果を報告しあい、青森県をはじめとする条件不利地域の社会変革に寄与する方向で、どのような応用が可能かを討議する。 授業の進め方は、履修者と相談の上、15回で終了するよう決定する。
(17)準備学習（予習・復習）等の内容	[予習]提示された課題に取り組む。 [復習]提示された課題に取り組む。
(18)学問分野1(主学問分野)	社会学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	政治学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	社会経済農学関連
(20)教材・教科書	宮内泰介(2017)『人びとの自然再生』岩波書店 野村康(2017)『社会科学の考え方』名古屋大学出版会
(21)参考文献	特になし
(22)成績評価方法及び採点基準	授業への参加度、発表内容を踏まえ、評価する。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	演習
(25)留意点・予備知識	特になし
(26)オフィスアワー	of-hirai@nifty.comに問い合わせること
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	of-hirai@nifty.com
(28)その他	特になし

(1)整理番号	3
(2)区分番号	3
(3)科目種別	大学院地域社会研究科
(4)授業科目名〔英 文名〕	研究方法論[Research methodology]
(5)対象学年	1～3年次
(6)必修・選択	選択必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	調整の上、決定
(10)担当教員(所属)	佐々木 純一郎(地域社会研究科)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル5
(14)授業としての具体的 到達目標	○博士論文の研究方法について理解する。
(15)授業の概要	毎回前半は教員が講義し、後半に受講生が課題解答と発表を行い、全員で論議します。各々の受講生の問題意識に即した実践的な授業展開を目指します。
(16)授業の内容予定	【過年度の実績による予定です】 第1回 イントロダクション 第2回 研究方法論とは何か 第3回 リサーチ戦略 第4回 ケース・スタディと他の戦略 第5回 ケース・スタディの設計 第6回 データ収集の準備 第7回 プロトコル 第8回 パイロット・ケース・スタディ 第9回 中間試験 第10回 証拠の収集 第11回 証拠の分析 第12回 ケース・スタディ・レポートの作成 第13回 データ対話型理論の構築・前半 第14回 データ対話型理論の構築・後半 第15回 研究方法論からの展開 第16回 期末試験
(17)準備学習(予習・復 習)等の内容	教科書を中心として予習する他に、日頃から自問自答しておくといいでしょう。
(18)学問分野1(主学問 分野)	経営学関連
(18)学問分野2(副学問 分野)	経済学関連
(18)学問分野3(副学問 分野)	-
(20)教材・教科書	R. K. イン著(1996)『ケース・スタディの方法』千倉書房
(21)参考文献	授業で紹介します。
(22)成績評価方法及び採 点基準	平常評価(授業への参加度):30% 中間評価(試験):35% 期末評価(試験):35%
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	講義形式ですが、受講生のみなさんの主体的な授業となるよう、毎回積極的に教員が質問してそれに答えていただく予定です。
(25)留意点・予備知識	予備知識は問われません。指導教員と相談して、関連授業を並行して受講なさると学習効果が高まります。
(26)オフィスアワー	月曜日-金曜日、8時半から9時まで。教育学部四階
(27)Eメールアドレス・ HPアドレス	sasajun@hirosaki-u.ac.jp NPOひろだいらサーチ: http://www.hirodai-r.org/home/
(28)その他	特になし

(1)整理番号	4
(2)区分番号	4
(3)科目種別	大学院地域社会研究科
(4)授業科目名 〔英文名〕	地域ブランドと地域産業[Local brands and local industry]
(5)対象学年	1～3年次
(6)必修・選択	選択
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	調整の上、決定
(10)担当教員 (所属)	佐々木 純一郎 (地域社会研究科)
(11)地域志向科目	地域志向科目
(12)難易度 (レベル)	レベル5
(14)授業としての 具体的到達目標	○地域ブランドの視点から、青森県をはじめとする地域の企業と経営を理解する。 ○ケース・スタディの方法を理解する。
(15)授業の概要	地場企業の経営について地域ブランドを中心とした授業を展開する。特に青森県と諸外国を含む他地域との比較を重視して実証的に検討する。また地域活性化をルーツの1つとする地域ブランドについて、多くの学問領域の知見を参考にして議論する。
(16)授業の内容 予定	【過年度の実績による予定です】 第1回 イントロダクション 第2回 企業とは何か 第3回 地域ブランドの背景 第4回 方法論とケース・スタディ 第5回 農産物ブランドの持続 第6回 方法論とケース・スタディ 第7回 地域と観光ブランド 第8回 定義と地域ブランドづくり 第9回 中間試験 第10回 方法論とケース・スタディ 第11回 ブランド形成と付加価値 第12回 ブランド形成プロセス 第13回 方法論とケース・スタディ 第14回 食とグルメのブランド化 第15回 北東北三県と道南そして新幹線効果 第16回 期末試験
(17)準備学習 (予習・復習) 等の内容	教科書を中心として予習する他に、日頃から情報収集しておくとい良いでしょう。
(18)学問分野 1(主学問分野)	経営学関連
(18)学問分野 2(副学問分野)	経済学関連
(18)学問分野 3(副学問分野)	-
(20)教材・教科書	佐々木純一郎編著 (2013) 『地域経営の課題解決』 同友館
(21)参考文献	授業中に指示します。
(22)成績評価方法 及び採点基準	平常評価 (授業への参加度) :30% 中間評価 (試験) :35% 期末評価 (試験) :35%
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・ 授業方法	講義中心ですが、受講生のみなさんの主体的な授業となるよう、毎回積極的に教員が質問してそれに答えていただく予定です。 また、受講生の関心に応じて、地場企業の訪問調査も行ないます。

(25)留意点・予備知識	予備知識は問われません。関連授業を並行して受講なさると学習効果が高まります。
(26)オフィスアワー	月曜日-金曜日、8時半から9時まで。教育学部四階
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	sasajun@hirosaki-u.ac.jp NPOひろだいらサーチ: http://www.hirodai-r.org/home/
(28)その他	特になし

(1)整理番号	5
(2)区分番号	5
(3)科目種別	大学院地域社会研究科
(4)授業科目名 〔英文名〕	地域マネジメント論[Regional Management Study]
(5)対象学年	1～3年次
(6)必修・選択	選択
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	調整の上、決定
(10)担当教員 (所属)	佐々木 純一郎 (地域社会研究科)
(11)地域志向 科目	地域志向科目
(12)難易度 (レベル)	レベル5
(14)授業とし ての具体的到達 目標	○青森県や広域青函圏を主な対象として、地域マネジメントを習得する。
(15)授業の概 要	2011年の東日本大震災以降、地域経営において地方自治体、企業、NPOそして大学等の多様な主体の役割分担と連携が重要なテーマになっています。 例えば、担当教員は青森県八戸圏域企業の震災時の行動について、NPOひろだいりサーチを事務局とするチームの一員として調査し、学会報告と政策提言を行いました。これまでとは異なる企業の役割などに焦点をあわせながら、将来の地域経営を考えていきます。
(16)授業の内 容予定	【過年度の実績による予定です】 第1回 イントロダクション 第2回 地域経営とは何か 第3回 地域経営の思想と方法 第4回 地域経営の研究史 第5回 地域経営の国際化 第6回 地域経営の多様な主体 第7回 多様な主体の連携 第8回 定義と地域づくり 第9回 中間試験 第10回 地域経営のケース・スタディ (1) 第11回 地域経営のケース・スタディ (2) 第12回 地域経営のケース・スタディ (3) 第13回 地域経営のケース・スタディ (4) 第14回 地域経営のケース・スタディ (5) 第15回 地域経営のケース・スタディ (6) 第16回 期末試験
(17)準備学習 (予習・復習) 等の内容	教科書を中心として予習する他に、日頃から情報収集しておくとい良いでしょう。
(18)学問分野 1(主学問分野)	経営学関連
(18)学問分野 2(副学問分野)	経済学関連
(18)学問分野 3(副学問分野)	-
(20)教材・教 科書	例、佐々木茂他編著 (2016) 『新版 地域マーケティングの核心』 同友館などを相談して選びます。
(21)参考文献	授業で紹介します。
(22)成績評価 方法及び採点基 準	平常評価 (授業への参加度) :30% 中間評価 (試験) :35% 期末評価 (試験) :35%
(23)授業形式	講義

(24)授業形態・授業方法	講義形式ですが、受講生のみなさんの主体的な授業となるよう、毎回積極的に教員が質問してそれに答えていただく予定です。 また、受講生の関心に応じて、フィールドワークを行ないます。
(25)留意点・予備知識	予備知識は問われません。関連授業を並行して受講なさると学習効果が高まります。
(26)オフィスアワー	月曜日-金曜日、8時半から9時まで。教育学部四階
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	sasa.jun@hirosaki-u.ac.jp NPOひろだいらサーチ: http://www.hirodai-r.org/home/
(28)その他	特になし

(1)整理番号	6
(2)区分番号	6
(3)科目種別	大学院地域社会研究科
(4)授業科目名〔英文名〕	地域企業と貿易〔integration of regional economy〕
(5)対象学年	1年次
(6)必修・選択	選択
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	9・10時限（調整の上、決定）
(10)担当教員（所属）	黄 孝春（人文社会科学部）
(11)地域志向科目	地域志向科目
(12)難易度（レベル）	レベル5
(14)授業としての具体的な到達目標	○農産物の輸出が直面する問題点を明らかにし、その解決策を一緒に考えることによって貿易理論に対する理解と地域農水産物輸出の実践力を身につける。
(15)授業の概要	青森県の農水産物の輸出をとりあげ、その現状と課題について考察します。とくに青森県産りんごの輸出を事例に輸出チャンネルの構築や地域ブランドの育成、知的財産権の管理・保護について実践的に検討します。
(16)授業の内容予定	授業の進め方は、履修者と相談の上、15回で終了するよう決定します。 以下の内容を予定しています。 戦後の農政と農産物の輸出 台湾向けりんご輸出 香港、中国大陸、東南アジア市場向けりんご輸出 長芋の輸出 水産物の輸出 ただし進行状況により変更もありえます。
(17)準備学習（予習・復習）等の内容	関連の課題を提示して事前に調べてもらいます。
(18)学問分野1(主学問分野)	経済学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	経営学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(20)教材・教科書	黄孝春・平本和博『りんごをアップルとは呼ばせない』弘前大学出版会。
(21)参考文献	随時プリントを配布します。
(22)成績評価方法及び採点基準	発表などにより総合的に評価します。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	事前に指定した文献等を読んだうえで、討議方式で行います。場合によって一緒に会社訪問することもあります。
(25)留意点・予備知識	地元新聞に出てくる関連ニュースを読んでほしい。
(26)オフィスアワー	水曜日12時—13時
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	huang@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし

地域社会研究科

(1)整理番号	7
(2)区分番号	7
(3)科目種別	大学院地域社会研究科
(4)授業科目名〔英文名〕	地域ビジネス論[Regional Business Study]
(5)対象学年	1年次
(6)必修・選択	選択
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	集中講義
(10)担当教員(所属)	森 樹男 (人文社会科学部)
(11)地域志向科目	地域志向科目
(12)難易度(レベル)	レベル5
(14)授業としての具体的な到達目標	○地域再生の方策について基礎的な知識を身につける。 ○基礎的な知識を様々な場面で応用できる能力を身につける。
(15)授業の概要	地域にはその発展の過程で形成された、その地域独特な知が存在しています。その知をどのように企業経営に活かしていくのか、また、地域の外から進出してきた企業は、そのような知をどのように企業に取り込み、自らの競争優位につなげていくのか、ということが企業経営において重要な課題となっています。この講義では、グローバルな視点をもちながら、青森県におけるリージョナルな知と企業の関係について考察を行います。
(16)授業の内容予定	第1回 イン트로ダクション 第2回～3回 地域再生戦略 第4回～5回 多国籍企業と地域経済 第6回～8回 事例研究 第9回～11回 青森県における地域イノベーション戦略 第12回～14回 青森県内企業の事例研究 第15回 まとめ ※具体的な内容については、受講者と相談の上決定します。
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	予習：事前にテキストを読み、議論したい点について用意してきてください。 復習：地域の事例を調べるなど、理論を実践に活かせるか日頃より検討してみてください。
(18)学問分野1(主学問分野)	経営学関連
(18)学問分野	-

2(副学問分野)	
(18)学問分野 3(副学問分野)	
(20)教材・教科書	特になし
(21)参考文献	諸富徹(2010)『地域再生の新戦略』, 中公叢書 安室憲一(2012)『多国籍企業と地域経済』, お茶の水書房 内田純一(2009)『地域イノベーション戦略』, 芙蓉書房出版
(22)成績評価方法及び採点基準	授業への参加度とレポートにより総合的に判断します。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	講義とディスカッション形式となります。
(25)留意点・予備知識	特になし
(26)オフィスアワー	木曜日 17:40~18:30 事前にメールで連絡があれば, その都度対応
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	mori@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし

地域社会研究科

(1)整理番号	8
(2)区分番号	8
(3)科目種別	大学院地域社会研究科
(4)授業科目名〔英文名〕	地域雇用政策研究 [Regional Employment Policy]
(5)対象学年	1～3年次
(6)必修・選択	選択
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	平成31年度は開講しない
(10)担当教員（所属）	李 永俊（人文社会科学部）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル5
(14)授業としての具体的到達目標	
(15)授業の概要	
(16)授業の内容予定	
(17)準備学習（予習・復習）等の内容	
(18)学問分野1(主学問分野)	-
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(20)教材・教科書	
(21)参考文献	
(22)成績評価方法及び採点基準	
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	
(25)留意点・予備知識	
(26)オフィスアワー	
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	
(28)その他	

地域社会研究科

(1)整理番号	9
(2)区分番号	9
(3)科目種別	大学院地域社会研究科
(4)授業科目名〔英文名〕	企業の経済学[Economics of Firms and Organizations]
(5)対象学年	1年次
(6)必修・選択	選択
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	調整の上、決定
(10)担当教員(所属)	飯島 裕胤(人文社会科学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル5
(14)授業としての具体的な到達目標	○応用経済学の手法を使って、企業の生成や変遷を本質的に理解する。
(15)授業の概要	伝統的な経済学は、企業の存在を前提にして、さまざまな財・サービスの資源配分を考えます。これに対し、企業の経済学は、財・サービスを生み出す企業が、そもそもどのように生成されるのか、それはどのように変化するのか、理論的に考察します。この授業では、いくつかの理論を紹介し、受講者にその理論の適否を考えてもらいます。
(16)授業の内容予定	受講者と相談の上、 15回で終了するよう 決定します。
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	論文、テキストを事前・事後に読んでもらいます。
(18)学問分野1(主学問分野)	経済学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	経営学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	法学関連
(20)教材・教科書	講義中に適宜紹介します。
(21)参考文献	講義中に適宜紹介します。
(22)成績評価方法及び	講義中の発言や、事前・事後学習の取り組み(複数回のレポートあり)をもとに採点します。

採点基準	
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	講義と受講者の発表を織り交ぜた形式です。
(25)留意点・予備知識	基本的な経済学の知識があることが望ましいですが、ない場合は、その分を努力（勉強時間）で補う必要があります。
(26)オフィスアワー	月曜日11:30-12:30
(27)メールアドレス・HPアドレス	ijjima(at)hirosaki-u.ac.jp ※ (at)は@に置き換えてください
(28)その他	特になし

(1)整理番号	10
(2)区分番号	10
(3)科目種別	大学院地域社会研究科
(4)授業科目名〔英文名〕	地域健康教育論[Health science and education in the Region]
(5)対象学年	1年次
(6)必修・選択	選択
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	月曜日 5・6時限
(10)担当教員(所属)	戸塚 学(教育学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル5
(14)授業としての具体的到達目標	○子どもの発育発達について広汎にわたる知識を身につける。 ○子どもの体力向上について広汎にわたる知識を身につける。 ○加齢が体力・運動能力に及ぼす影響について広汎にわたる知識を身につける。 ○加齢が健康に及ぼす影響について広汎にわたる知識を身につける。
(15)授業の概要	○子どもの発育発達に関する最新の知見について学ぶ ○子どもの体力の向上に関する最新の知見について学ぶ ○加齢が体力・運動能力に及ぼす影響についての最新の知見を学ぶ ○加齢が健康に及ぼす影響についての最新の知見を学ぶ
(16)授業の内容予定	第1回：発育発達概論 第2回：発育発達に関する最新の知見① 第3回：発育発達に関する最新の知見② 第4回：子どもの体力論 第5回：子どもの体力向上に関する最新の知見① 第6回：子どもの体力向上に関する最新の知見① 第7回：加齢と体力 第8回：加齢による体力の減退に関する最新の知見① 第9回：加齢による体力の減退に関する最新の知見② 第10回：加齢と健康 第11回：加齢が健康に及ぼす影響に関する最新の知見① 第12回：加齢が健康に及ぼす影響に関する最新の知見② 第13回：学校における健康教育の意義 第14回：学校における健康教育の実際 第15回：学校における健康教育のマネジメント 第16回：期末テスト
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	授業時に配布する資料を中心に関連する内容を自ら調べて学習して下さい。
(18)学問分野1(主学問分野)	健康科学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(20)教材・教科書	特になし
(21)参考文献	授業時に適宜プリントを配布します。
(22)成績評価方法及び採点基準	期末評価(期末試験)：100%
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	関連する最新のトピックスを照会します。
(25)留意点・予備知識	特になし
(26)オフィスアワー	月曜日11:00~12:00
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	tot@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし

(1)整理番号	11
(2)区分番号	11
(3)科目種別	大学院地域社会研究科
(4)授業科目名 〔英文名〕	地域製品開発[Regional product development]
(5)対象学年	1年次
(6)必修・選択	選択
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	調整の上、決定
(10)担当教員 (所属)	石川 善朗（教育学部）
(11)地域志向科目	地域志向科目
(12)難易度（レベル）	レベル5
(14)授業としての 具体的な到達目標	○青森県地域を設定して、実際に新商品開発を行った経験から、その手法を身につける。 ○地域社会が持つ課題を特定し、デザインマーケティングの手法の中から視覚伝達デザイン分野の知識を習得する。
(15)授業の概要	青森県における色感嗜好調査結果に基づいて、地域による視覚伝達手法を調査し、新商品開発の方法をまとめる。県内各地の特色なども生かしつつ、最後は講義内容をまとめてから結果をディスカッションして考察する。
(16)授業の内容 予定	以下を行う。内容は適宜変更する可能性がある。 <ul style="list-style-type: none"> ○第1回 ガイダンス。 ○第2回 広義のデザインについてと工業デザインの考察 ○第3回 企業が生産する製品とそれを購入する行為におけるデザイン発想 ○第4回 デザイン発想の細分化とデザインマーケティングについて ○第5回 プレゼンテーション：青森県の色感嗜好についてと内容解説 ○第6回 弘前近隣物販店の商品の調査について ○第7回 調査発表とディスカッション ○第8回 産業デザインのための形容詞の対比における色彩イメージ理論の解説（オズグッド博士らの理論） ○第9回 産業デザインのための形容詞の対比における色彩の中で具体例を考察する ○第10回 青森県の商品開発を想定し具体化を考案する ○第11回 実際の商品テーマコンセプトの説明 ○第12回 消費者ターゲットプロフィールの説明 ○第13回 テーマコンセプトとターゲットプロフィールの発表 ○第14回 テーマコンセプトとターゲットプロフィールの内容検討 ○第15回 まとめ
(17)準備学習 (予習・復習)等 の内容	予習：適宜指示を行うのでその課題を調査検討しておく。 復習：授業内容の検討を行う
(18)学問分野 1(主学問分野)	芸術関連
(18)学問分野 2(副学問分野)	経済学関連
(18)学問分野 3(副学問分野)	-
(20)教材・教科 書	特になし
(21)参考文献	特になし
(22)成績評価方 法及び採点基準	平常授業（発表など）：50% 最終プレゼンテーション：50%
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・ 授業方法	講義を行いながら、内容について検討する
	特になし

(25)留意点・予備知識	
(26)オフィスアワー	平日の11:50~12:40
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	hirozen@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし

地域社会研究科

(1)整理番号	12
(2)区分番号	12
(3)科目種別	大学院地域社会研究科
(4)授業科目名〔英文名〕	地域科学技術論[regional technology]
(5)対象学年	1年次
(6)必修・選択	選択
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	調整の上、決定
(10)担当教員(所属)	長南 幸安(教育学部)
(11)地域志向科目	地域志向科目
(12)難易度(レベル)	レベル5
(14)授業としての具体的な到達目標	○地域社会・地域産業における科学・技術に関して歴史・文化と関連づけながら考察できる能力を身につける。
(15)授業の概要	地域社会や地域産業の背景には、その地域の歴史や文化に根ざした技術が存在する。また新たな産業が起きる場合には、新しい科学・技術が存在し、その地方にマッチングしているケースが多い。このような地域社会や地域産業における科学・技術について北日本・青森・津軽などを素材に考察や検証を行う。
(16)授業の内容予定	実例の調査を行い、その分析をすることで、新たな産業へ展開の可能性を議論する。 テーマに関しては、履修者の能力・興味・関心などを考慮し、4～5テーマを選び、1テーマあたり3～4回に渡り講義を行うスタイルを進める。 授業の進め方は、履修者と相談の上、15回で終了するよう決定する。
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	予習はテーマについての事前調査 復習は講義時に出された課題や調査事項の検討
(18)学問分野1(主学問分野)	学際・新領域
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(20)教材・教科書	特になし
(21)参考文献	特になし
(22)成績評価方法及び採点基準	レポートにより評価
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	講義形式

(25)留意 点・予備知識	特になし
(26)オフィ スアワー	月～金 8:00～8:30
(27)Eメール アドレス・ HPアドレス	E-mail: cho@hirosaki-u.ac.jp HPアドレス: http://siva.cc.hirosaki-u.ac.jp/rika/kagaku/chonan/index.html
(28)その他	特になし

(1)整理番号	13
(2)区分番号	13
(3)科目種別	大学院地域社会研究科
(4)授業科目名〔英 文名〕	地域産業振興論 [Regional industrial development]
(5)対象学年	1～3年次
(6)必修・選択	選択
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	調整の上、決定
(10)担当教員（所 属）	内山 大史（地域社会研究科）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベ ル）	レベル5
(14)授業としての 具体的到達目標	○地域の産業振興を目的とした国、自治体等の取組みについて事例を学んだ後、“科学技術”、“知的財産”そして“データ”を経営戦略、地域振興戦略に活用する能力を身につける。
(15)授業の概要	○産業振興を目的とする“産学官金連携”の歴史と地域における現状を概観したうえで、“技術経営（MOT）”、“知的財産経営”、“データをベースにした課題解決”の実際について学修する。
(16)授業の内容予 定	第1回～第4回：産学官金連携を基盤にした地域振興、産業振興 第5回～第8回：技術経営のポイント 第9回～第12回：知的財産経営のポイント 第13回～第15回：データを基盤とした課題解決
(17)準備学習（予 習・復習）等の内容	[予習]各グループ回の冒頭には各テーマに関する予備的な学習が必要です。 [復習]各グループ回修了後、具体的な案件の確認や課題等探索が必要です。
(18)学問分野1(主 学問分野)	学際・新領域
(18)学問分野2(副 学問分野)	-
(18)学問分野3(副 学問分野)	-
(20)教材・教科書	教科書は使用されません。講義中、適宜プリント等が配布されます。
(21)参考文献	特になし
(22)成績評価方法 及び採点基準	平常評価（ミニレポート）：100%
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授 業方法	各グループ回について前半は座学中心、後半はアクティブ・ラーニング型の授業（調査、発表など）となります。
(25)留意点・予備 知識	エクセル、パワーポイントを利用しますが、特別なスキル等は必要ありません。
(26)オフィスア ワ ー	月曜日12～13時ですが、具体的な日時については事前にメールで確認してください。
(27)Eメールアドレ ス・HPアドレス	daishi@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし

(1)整理番号	14
(2)区分番号	14
(3)科目種別	大学院地域社会研究科
(4)授業科目名〔英文名〕	ソーシャル・ビジネス論 [Social Business Studies]
(5)対象学年	1～3年次
(6)必修・選択	選択
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	3・4時限（調整の上、決定）
(10)担当教員（所属）	大倉 邦夫(人文社会科学部)
(11)地域志向科目	地域志向科目
(12)難易度（レベル）	レベル5
(14)授業としての具体的な到達目標	○企業社会論、ソーシャル・ビジネスに関する研究内容について理解を深め、基礎的な知識を身につける。
(15)授業の概要	近年、地球環境問題、少子高齢化問題、地域の課題等の社会的課題に対して、企業がビジネスの手法を用いて取り組む「ソーシャル・ビジネス」という事業形態に関心が集まっている。本講義では、ソーシャル・ビジネスに関する国内外の議論を学ぶことを通して、ソーシャル・ビジネスの現状と課題について理解を深めていく。
(16)授業の内容予定	第1回 インTRODクシヨン 第2回～第3回 企業社会論、ソーシャル・ビジネスの概要 第4回～第5回 アメリカにおけるソーシャル・ビジネスの展開 第6回～第7回 イギリスにおけるソーシャル・ビジネスの展開 第8回～第10回 日本におけるソーシャル・ビジネスの展開 第11回～第12回 ソーシャル・イノベーションの創出と普及 第13回～第14回 事例研究（受講者による調査報告） 第15回 まとめ
(17)準備学習（予習・復習）等の内容	教科書、あるいは授業中に配布する論文を事前に読み込み、授業で議論したいポイントをまとめておくようにしよう。
(18)学問分野1(主学問分野)	経営学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(20)教材・教科書	谷本寛治編著（2006）『ソーシャル・エンタープライズ』中央経済社
(21)参考文献	授業中に紹介します。
(22)成績評価方法及び採点基準	授業への参加度、事例研究の報告内容を踏まえ、評価します。

(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	基本は講義形式ですが、ディスカッションも行います。また、受講者に青森県のソーシャル・ビジネスについて調査してもらうことを予定しています。(事例研究)
(25)留意点・予備知識	特になし
(26)オフィスアワー	金曜日10:20~11:50
(27)メールアドレス・HPアドレス	k_ohkura@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし

(1)整理番号	15
(2)区分番号	15
(3)科目種別	大学院地域社会研究科
(4)授業科目名〔英文名〕	地域社会動態論 [Social Dynamics of Locality]
(5)対象学年	1年次
(6)必修・選択	選択
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	9・10時限（調整の上、決定）
(10)担当教員（所属）	平井 太郎（地域社会研究科）
(11)地域志向科目	地域志向科目
(12)難易度（レベル）	レベル5
(14)授業としての具体的到達目標	<p>○青森県を中心とした地域を素材として、持続可能性の軸とした課題探究能力を養う。</p> <p>○地域社会の動態を多面的に分析する方法論を習得する。</p> <p>○方法論的な知識を土台として、持続可能な地域社会に向けた政策や実践を企画・立案する能力を養う。</p>
(15)授業の概要	<p>地域社会の持続可能性が根柢から問われている現在、あらためてこれまでの動態を多面的に検証しなおすことが求められている。</p> <p>その際、鍵となるのは、そうした研究実践を地域社会の担い手自身の認識の変化をともなうかたちで企画・実施することである。</p> <p>本講では、そのようなアクション・リサーチの方法論について、受講者の実践を基礎として検討する。</p>
(16)授業の内容予定	<p>受講者の研究実践報告を基礎として討議を行う。</p> <p>授業の進め方は、履修者と相談の上、15回で終了するよう決定する。</p>
(17)準備学習（予習・復習）等の内容	<p>[予習] 提示された課題に取り組む。</p> <p>[復習] 提示された課題に取り組む。</p>
(18)学問分野1(主学問分野)	社会学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(20)教材・教科書	"Action Research in Policy Analysis"(Bartels&Wittmayer編著、2018年、Routledge刊)
(21)参考文献	特になし
(22)成績評価方法及び採点基準	授業への参加度、発表内容を踏まえ、評価する。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	演習と討議
(25)留意点・予備知識	特になし
(26)オフィスアワー	of-hirai@nifty.comに問い合わせること
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	of-hirai@nifty.com
(28)その他	特になし

(1)整理番号	16
(2)区分番号	16
(3)科目種別	大学院地域社会研究科
(4)授業科目名〔英文名〕	地域言語行動論[Study of regional verbal behavior]
(5)対象学年	1～3年次
(6)必修・選択	選択
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	平成31年度は開講しない
(10)担当教員(所属)	佐藤 和之(人文社会科学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル5
(14)授業としての具体的到達目標	
(15)授業の概要	
(16)授業の内容予定	
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	
(18)学問分野1(主学問分野)	-
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(20)教材・教科書	
(21)参考文献	
(22)成績評価方法及び採点基準	
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	
(25)留意点・予備知識	
(26)オフィスアワー	
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	
(28)その他	

(1)整理番号	17
(2)区分番号	17
(3)科目種別	大学院地域社会研究科
(4)授業科目名〔英文名〕	埋蔵文化財の保護と活用[Protection and Utilization of Buried Cultural Properties]
(5)対象学年	1年次
(6)必修・選択	選択
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	調整の上、決定
(10)担当教員(所属)	関根 達人(人文社会科学部)
(11)地域志向科目	地域志向科目
(12)難易度(レベル)	レベル5
(14)授業としての具体的到達目標	○埋蔵文化財保護行政の現状と課題について学び、文化財の保護と活用の知識を得る。
(15)授業の概要	青森県内の事例に基づき、埋蔵文化財保護行政が直面している課題を見つけ、課題解決の方法について、他県の例を参考に検討します。
(16)授業の内容予定	授業の進め方は、履修者と相談の上、15回で終了するよう決定する。 取り扱う内容は以下のとおり。 1. 「今後の文化財保護行政の在り方について」(平成25年12月13日文化審議会文化財分科会企画調査会)の検討 2. 埋蔵文化財保護調整について 3. 埋蔵文化財の調査対象について 4. 埋蔵文化財の調査体制について 5. 埋蔵文化財の調査方法について
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	授業に先立ち、毎回資料の作成を求めます。
(18)学問分野1(主学問分野)	考古学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	歴史学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	博物館学関連
(20)教材・教科書	特になし
(21)参考文献	授業の中で指示します。
(22)成績評価方法及び採点基準	授業への参加度と提出資料で成績評価を行います。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	講義+演習
(25)留意点・予備知識	特になし
(26)オフィスアワー	水曜日1・2時限目
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	sekine@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	文化財保護行政に携わるか将来それを希望する方向への授業です。 開講日時は受講者の希望に沿って相談に応じます。

地域社会研究科

(1)整理番号	18
(2)区分番号	18
(3)科目種別	大学院地域社会研究科
(4)授業科目名〔英文名〕	民俗文化と地域社会[Folk Culture and “Region”]
(5)対象学年	1～3年次
(6)必修・選択	選択
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	平成31年度は開講しない
(10)担当教員(所属)	山田 巖子(人文社会科学部)
(11)地域志向科目	
(12)難易度(レベル)	レベル5
(14)授業としての具体的到達目標	
(15)授業の概要	
(16)授業の内容予定	
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	
(18)学問分野1(主学問分野)	-
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(20)教材・教科書	
(21)参考文献	
(22)成績評価方法及び採点基準	
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	
(25)留意点・予備知識	
(26)オフィスアワー	
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	
(28)その他	

地域社会研究科

(1)整理番号	19
(2)区分番号	19
(3)科目種別	大学院地域社会研究科
(4)授業科目名〔英文名〕	地域社会生態論[Study of regional social ecology]
(5)対象学年	全学年
(6)必修・選択	選択
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	調整の上、決定
(10)担当教員(所属)	杉山 祐子(人文社会科学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル5
(14)授業としての具体的到達目標	1. 地域研究における社会生態学的／生態人類学的アプローチの特徴と意義を理解する 2. 具体的な知見に基づいて、環境を含む地域社会を包括的に理解するための枠組みを学ぶ 3. フィールドワークに基づいた諸研究の蓄積から、課題を発見するための調査デザイン・方法論・視点を学ぶ
(15)授業の概要	地域社会の研究を進めるためには、具体的なデータに基づきながら、当該地域の環境・生業・社会構造、歴史、価値体系など、幅広い分野を包括的に捉え、理解する視点が必要です。 この授業では、ヒトと環境との相互作用に注目し、生業を切り口としたインテンシブな現地調査(フィールドワーク)を特徴とする社会生態学的／生態人類学的アプローチによる諸研究に焦点を当てます。これらの成果を読み解くことを通して、当該地域社会の特徴やその変化を把握し、今後の展開を考察するとともに、各地域で進められているさまざまな実践についても検討します。
(16)授業の内容予定	1講. イントロダクション 2～4講 地域研究と生態人類学(その方法と視角) 5～7講 環境利用システムとしての生業と社会 8講 中間討論 9～12講 共存と共生 13～15講 グローバルとローカル～「開発」と在来のイノベーション 内容や順序は、受講者の関心や知識によって変更する可能性があります。
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	予習には、指定した文献を読み込み、論点やコメントをあげられるようにしておくこと。時間が許す限り、関連文献にも目を通してほしい。 復習では、授業内での議論を反芻し、関連文献も併せて検討して、考察を深める努力をすることを勧めます。
(18)学問分野1(主学問分野)	文化人類学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	社会学関連
(18)学問	学際・新領域

分野3(副 学問分野)	
(20)教 材・教科 書	指定しません。必要な文献リストを配布します。
(21)参考 文献	掛谷誠・伊谷樹一（編）『アフリカ地域研究と農村開発』京都大学学術出版会
(22)成績 評価方法 及び採点 基準	平常点（授業における発表と論点出し、議論への積極的参加）50%および期末レポート50%
(23)授業 形式	講義
(24)授業 形態・授 業方法	講義形式と演習形式を併用します
(25)留意 点・予備 知識	とくになし。初回に相談・調整します
(26)オフ イスアワ ー	水曜12:00-12:40（出張等で不在にすることもあります）
(27)Eメ ールアド レス・HP アドレス	yukos[at]hirosaki-u. ac. jp
(28)その 他	特になし

地域社会研究科

(1)整理 番号	20
(2)区分 番号	20
(3)科目 種別	大学院地域社会研究科
(4)授業 科目名 〔英文 名〕	生物多様性論[Biodiversity]
(5)対象 学年	1～3年次
(6)必 修・選択	選択
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜 日・時限	履修者と相談の上決定
(10)担当 教員(所 属)	大高 明史(教育学部)
(11)地域 志向科目	地域志向科目
(12)難易 度(レベ ル)	レベル5
(14)授業 としての 具体的到 達目標	○生物群集の構造や生物間相互作用が、地域の環境と深く関連して成立していることを理解するとともに、人間活動との関わりを説明する能力を養う。
(15)授業 の概要	地域固有の財産としての生物多様性について、生物学的側面からの理解を深めるとともに人間活動との関係を考察する。特に湖沼生態系を中心として、群集の構造や機能に関する諸理論を学び、人間活動を含めた環境との関わりを考察する。具体的には、青森県の湖沼を念頭に置いて、生物群集の構造や成立背景を把握するとともに、その地域で行われてきた人間活動が生物多様性と深く関わっていることを検証する。
(16)授業 の内容予 定	第1～3回 十和田湖の生物群集とその成立背景 第4～6回 小川原湖の生物群集とその成立背景 第7～9回 十二湖の生物群集とその成立背景 第10～12回 湖沼における生態系サービス 第13～15回 湖沼生態系の変化とその要因 進行状況により、変更もあり得る。
(17)準備 学習(予 習・復 習)等の 内容	参考文献などを使って事前に概要を把握するとともに、授業中に浮かび上がった課題について、事後に各種の文献を使って考察する。
(18)学問 分野1(主 学問分野)	個体レベルから集団レベルの生物学と人類学関連
(18)学問 分野2(副 学問分野)	水圏応用科学関連
(18)学問 分野3(副 学問分野)	環境保全対策関連

(20)教材・教科書	教科書は用いない。
(21)参考文献	鷲谷いずみ：生物多様性入門，岩波ブックレット，岩波書店 Bronmark and Hansson著，占部他訳，湖と池の生物学，生物の適応から群集理論・保全まで，共立出版。 他に，授業時に論文などを紹介します。
(22)成績評価方法及び採点基準	複数の論述試験（50%）と課題レポート（50%）の成果をもとに判断する。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	講義を主体にするが，多数回の演習，討論を交える。
(25)留意点・予備知識	特になし
(26)オフィスアワー	月曜9・10時限
(27)メールアドレス・HPアドレス	連絡先：大高明史（教育学部1-23）． ohataka@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし

地域社会研究科

(1)整理番号	21
(2)区分番号	21
(3)科目種別	大学院地域社会研究科
(4)授業科目名 〔英文名〕	地域サウンドスケープ論 [Soundscape Studies: Interdisciplinary Perspectives]
(5)対象学年	1～3年次
(6)必修・選択	選択
(7)単位	2
(8)学期	前期／後期
(9)曜日・時限	集中講義
(10)担当教員 (所属)	今田 匡彦 (教育学部)
(11)地域志向科目	地域志向科目
(12)難易度 (レベル)	レベル5
(14)授業としての具体的到達目標	○サウンドスケープ論を通して音と人間の関係性を言語化し、学際的に応用できる能力を身につける。
(15)授業の概要	サウンドスケープ (soundscape) とは、カナダの作曲家R. マリー・シェーファー (R. Murray Schafer) によって提唱された思想である。サウンドスケープは、風景を表す landscape の接尾語scape と、音 sound を繋げたシェーファー自身による造語で、自然界の音、都市の喧騒、楽音のような人工音など、我々を取り巻く音すべてを1つの風景として捉えるとともに、ある特定の地域で、人々がそこに鳴り響く音をどのように認識し価値付けているのかを知るための概念である。本講義では、このサウンドスケープ論を基盤に、特定地域の音環境と音楽の関係を、芸術論、身体論、音楽教育を踏まえつつ、検討していく。
(16)授業の内容予定	1) サウンドスケープとは 2) サウンドウォーク 3) 身体としての聴覚 4) 音楽とサウンドスケープ 5) ミメーシス 6) 記号論 7) 基調音 8) 信号音 9) 標識音 10) 音事象 11) 土地と音 12) 音楽教育 13) サウンド・エデュケーション 14) サウンドスケープ・デザインとユニヴァーサル・デザイン
(17)準備学習	講義中に適宜指示する。集中講義のため具体的な時間は設定しない。

(予 習・復 習)等 の内容	
(18)学 問分野 1(主学 問分野)	芸術関連
(18)学 問分野 2(副学 問分野)	思想関連
(18)学 問分野 3(副学 問分野)	教育学関連
(20)教 材・教 科書	今田匡彦『哲学音楽論：音楽教育とサウンドスケープ』（恒星社厚生閣）
(21)参 考文献	R. マリー・シェーファー『世界の調律』（平凡社） R. マリー・シェーファー&今田匡彦『音さがしの本』増補版（春秋社） ロラン・バルト『第3の意味』 スーザン・ソントグ『反解釈』 ベデロ・デ・アルカンタラ『音楽家のためのアレクサンダー・テクニク入門』
(22)成 績評価 方法及 び採点 基準	タームペーパーにより評価する。（100%）
(23)授 業形式	講義
(24)授 業形 態・授 業方法	様々な視聴覚資料を用いた講義
(25)留 意点・ 予備知 識	特になし
(26)オ フィス アワー	メールにてアポイントを取ること
(27)E メール アドレ ス・HP アドレ ス	timada@hirosaki-u.ac.jp
(28)そ の他	前期と後期それぞれ開講する。希望者はどちらかの学期に履修すること。

地域社会研究科

(1)整理番号	22
(2)区分番号	22
(3)科目種別	大学院地域社会研究科
(4)授業科目名〔英文名〕	地表環境動態論[Special lecture for dynamics of earth surface environment]
(5)対象学年	1～3年次
(6)必修・選択	選択
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	3・4時限（調整の上、決定）
(10)担当教員（所属）	小岩 直人（教育学部）
(11)地域志向科目	地域志向科目
(12)難易度（レベル）	レベル5
(14)授業としての具体的到達目標	○津軽における地表環境を地球規模での環境変遷を軸に説明できる能力を身につける。
(15)授業の概要	白神山地を含む西津軽地域における、地形および気候の成り立ちと、そこで行われてきた人間活動の関係を検討します。特に、日本でも有数の隆起速度をもつ白神山地の地形の特徴、約10万年周期で繰り返される氷期—間氷期サイクルの気候変化に伴って形成された海成段丘や河成段丘の発達過程、そこで営まれている人間生活について、現地調査をふまえながら考察します。
(16)授業の内容予定	第1回 ガイダンス 第2回～5回 日本の地形と世界の地形に関する講義 第6回～10回 西津軽地域の野外調査（土曜日または日曜日に実施） 第11回～14回 津軽地域の地形の特徴とその発達過程に関する講義 第15回 まとめ
(17)準備学習（予習・復習）等の内容	授業の復習、および講義時に配布される論文等を熟読することが必要となります。
(18)学問分野1(主学問分野)	地理学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	地球惑星科学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	材料工学関連
(20)教材・教科書	特に使用しません。

(21)参考文献	講義時に紹介します。
(22)成績評価方法及び採点基準	授業の参加状況 (30%) , レポート (70%)
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	講義, 演習, 実習を組み合わせた授業になります。
(25)留意点・予備知識	特になし
(26)オフィスアワー	水曜日10:20~11:50
(27)メールアドレス・HPアドレス	koiwa@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし

地域社会研究科

(1)整理番号	23
(2)区分番号	23
(3)科目種別	大学院地域社会研究科
(4)授業科目名〔英文名〕	経済法・政策論[Economic law and policy]
(5)対象学年	1年次
(6)必修・選択	選択
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	調整の上、決定
(10)担当教員(所属)	長谷河 亜希子(人文社会科学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル5
(14)授業としての具体的到達目標	○経済法分野の問題に関して、基礎的知識の修得に留まらず、研究論文を読みこなしたうえで分析し、私見を述べる能力を身につける。
(15)授業の概要	経済法の諸法の中でも代表的な法律である独占禁止法に関し、論文や審判決等を用いて学ぶことを通じ、競争政策について理解を深める。私的独占、不当な取引制限、不公正な取引方法、企業結合のいずれに焦点を合わせるかなどは受講生の問題意識に即して決定したい。なお、諸外国の競争政策が相互に影響しあうことから、必要に応じて米、EU、中、韓などの諸外国の競争法についても検討を行いたい。
(16)授業の内容予定	受講生の専門に合わせて、相談の上、15回で終了するよう決定する。
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	論文・判例の読み込み、報告へ向けてのレジュメの作成。
(18)学問分野1(主学問分野)	法学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(20)教材・教科	適宜提示します。

書	
(21)参考文献	適宜提示します。
(22)成績評価方法及び採点基準	発表、発言内容による。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	受講生からの報告・質疑応答。
(25)留意点・予備知識	特になし
(26)オフィスアワー	火曜日7・8時限。研究室は人文棟3階の323研究室
(27)メールアドレス・HPアドレス	—
(28)その他	特になし

(1)整理番号	24
(2)区分番号	24
(3)科目種別	大学院地域社会研究科
(4)授業科目名 〔英文名〕	地方財政論[Local Public Finance]
(5)対象学年	1～3年次
(6)必修・選択	選択
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	1・2時限（相談のうえ決定）
(10)担当教員 (所属)	金目 哲郎（人文社会科学部）
(11)地域志向 科目	-
(12)難易度 (レベル)	レベル5
(14)授業とし ての具体的到達 目標	○現代(地方)財政に関する研究課題を独力で設定し分析する能力を身につける。 ○各人が設定する研究課題を学術論文として執筆するための素地を身につける。
(15)授業の概 要	財政学・地方財政論に関する歴史的・制度論的アプローチによる文献や論文を通して、福祉国家財政にかかる諸問題の検討と将来展望をしていきます。文献や論文は受講生の問題意識を考慮のうえ選定します。
(16)授業の内 容予定	<p>以下は、現代日本の政府間財政関係の文献を選定した場合の授業の例です。</p> <p>第1回 ガイダンスおよび講義（文献案内、地方財政とは）</p> <p>【第2回～第6回】日本の福祉国家財政</p> <p>第2回 受講生による報告と討論（社会保障）</p> <p>第3回 受講生による報告と討論（少子化対策）</p> <p>第4回 受講生による報告と討論（公共投資）</p> <p>第5回 受講生による報告と討論（財政構造改革）</p> <p>第6回 受講生による報告と討論（公共政策の公私分担）</p> <p>【第7回～第15回】地方分権改革の歴史的意義</p> <p>第7回 受講生による報告と討論（地方分権）</p> <p>第8回 受講生による報告と討論（政府間事務配分）</p> <p>第9回 受講生による報告と討論（租税配分）</p> <p>第10回 受講生による報告と討論（市町村合併）</p> <p>第11回 受講生による報告と討論（地方交付税）</p> <p>第12回 受講生による報告と討論（補助金）</p> <p>第13回 受講生による報告と討論（地方債）</p> <p>第14回 受講生による報告と討論（分権改革）</p> <p>第15回 受講生による報告と討論（総括）</p> <p>※授業の進行状況や受講生の問題意識、選定する文献等により、シラバスと実際の内容と異なる場合があります。</p>
(17)準備学習 (予習・復習) 等の内容	報告者はレジュメを準備します。
(18)学問分野 1(主学問分野)	経済学関連
(18)学問分野 2(副学問分野)	-
(18)学問分野 3(副学問分野)	-
(20)教材・教 科書	地方財政全般を扱う文献とするか、特定のテーマ（例えば、教育、環境、社会保障、税制）を扱った文献とするかは受講生の問題意識と関心を考慮のうえ決定します。なお、輪読候補となり得る文献（教科書）の例を、下記に参考文献として挙げておきます。
(21)参考文献	門野圭司編著『生活を支える社会のしくみを考える』（2019）日本経済評論社 井手英策『経済の時代の終焉』（2015）岩波書店 金澤史男『福祉国家と政府間関係』（2010）日本経済評論社 篠原正博ほか編著『テキストブック地方財政』（2017）創成社
(22)成績評価 方法及び採点基	レジュメの報告：80% 討論の内容：20% 上記を合算して、最終的な成績評価を行う予定です。

準	
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	輪読方式。受講者によるレジュメ報告に基づき、討論します。
(25)留意点・予備知識	具体的な文献や授業内容は、受講者と相談のうえ決定します。
(26)オフィスアワー	水曜日12時～13時（他の曜日・時限でも可）
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	kaname-t(at)hirosaki-u.ac.jp ※(at)は@に置き換えてください。
(28)その他	開講する曜日・時限は、履修者と相談のうえ決定することも可能です。

(1)整理番号	25
(2)区分番号	25
(3)科目種別	大学院地域社会研究科
(4)授業科目名 〔英文名〕	地域計画実践論 [Regional Planning Practice Theory]
(5)対象学年	1～3年次
(6)必修・選択	選択
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	集中
(10)担当教員 (所属)	北原 啓司 (教育学部)
(11)地域志向科目	地域志向科目
(12)難易度 (レベル)	レベル5
(14)授業としての 具体的到達目標	○それぞれの研究分野で学位論文をまとめようとする受講者に対して、成長から成熟へと移行する人口減少社会の実態を理解した上で、21世紀に対応するパラダイム転換を各専門の研究に活かすことができるような知見を習得する。
(15)授業の概要	○21世紀の地域政策のキーワードとして、ヨーロッパ社会から導入され、我が国において存在感を増しつつある「コンパクトシティ」をテーマとして学ぶ。 ○環境・社会・ライフスタイル・制度等の多角的な視点から、まち育て政策の可能性と津軽地域における方向性を検討する。
(16)授業の内容 予定	1. 成長社会から成熟社会へ 2. 「参加」と「公共」 3. FM (ファシリティ・マネジメント) の思想 4. 黒石にみる「参加」の思想 5～7. 黒石まち歩き研修講義およびまちづくりNPOヒアリング 8. 景観法の時代のまち育て 9. 環境学習・景観学習 10. 「空間」を「場所」にかえるまち育て 11～13. 弘前のまち育て実地視察およびまちづくり団体ヒアリング 14. コンパクトシティのまち育て (1) 15. コンパクトシティのまち育て (2)
(17)準備学習 (予習・復習) 等の内容	講義の内容を復習において様々な文献や情報を収集することによりさらに深めておくことが必要となる。
(18)学問分野 1(主学問分野)	建築学関連
(18)学問分野 2(副学問分野)	学際・新領域
(18)学問分野 3(副学問分野)	-
(20)教材・教科書	特になし
(21)参考文献	北原啓司、「空間」を「場所」に変えるまち育て、萌文社
(22)成績評価方法 及び採点基準	レポートにより評価する。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・ 授業方法	パワーポイントによる講義のほか、現地見学も含む。
(25)留意点・予	

備知識	
(26)オフィスアワー	
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	mxg02632@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし

(1)整理番号	26
(2)区分番号	26
(3)科目種別	大学院地域社会研究科
(4)授業科目名〔英文名〕	地域教育実践論[Study of Educational practice in the Region]
(5)対象学年	1～3年次
(6)必修・選択	選択
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	平成31年度は開講しない
(10)担当教員(所属)	小瑤 史朗(教育学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル5
(14)授業としての具体的到達目標	
(15)授業の概要	
(16)授業の内容予定	
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	
(18)学問分野1(主学問分野)	-
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(20)教材・教科書	
(21)参考文献	
(22)成績評価方法及び採点基準	
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	
(25)留意点・予備知識	
(26)オフィスアワー	
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	
(28)その他	

(1)整理番号	27
(2)区分番号	27
(3)科目種別	大学院地域社会研究科
(4)授業科目名〔英文名〕	発達支援・臨床保育論[developmental care and support for social inclusion]
(5)対象学年	1～3年次
(6)必修・選択	選択
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	7・8時限（調整の上、決定）
(10)担当教員（所属）	増田 貴人（教育学部）
(11)地域志向科目	地域志向科目
(12)難易度（レベル）	レベル5
(14)授業としての具体的到達目標	○臨床発達心理学的視座を学ぶことをとおして、多様な視点から自らの研究テーマを深める。
(15)授業の概要	障害児の支援にあたっては、本人支援はもちろんだが、家族も含めた地域支援の充実が非常に重要である。障害者権利条約批准（日本は2014年）をはじめとして、ハード・ソフト両面によるインクルーシブ環境の整備は、国際的な潮流でもあり、地域社会の発展にも無関係ではありえない。本授業では、これらの背景を基盤として、臨床発達心理学的視座から障害児の保育・発達支援について論じていく。
(16)授業の内容予定	以下のように予定はするが、原則として、履修者と相談の上、教員と履修者それぞれの研究テーマの接点を探りながら展開する。 1) ガイダンス 2) 生涯発達の視点 3) 育児支援の方向性 4) 育児支援の施策の動向 5) 育児支援における生態学的視点 6) 育児支援の専門性と地域社会 7) 子育て支援と発達臨床 8) 子どもの特性に応じた育児支援 1 ハイリスク児 9) 子どもの特性に応じた育児支援 2 NPO等との協働 10) 子どもの特性に応じた育児支援 3 「気になる」子ども 11) 子どもの特性に応じた育児支援 4 障害 12) 保護者の特性に応じた育児支援 13) ひとり親家庭の育児支援 14) 多文化・多言語の保護者への支援 15) まとめ
(17)準備学習（予習・復習）等の内容	通常の演習と同様、決まった授業内容に沿って、研究準備や文献執筆等を行う。
(18)学問分野 1(主学問分野)	教育学関連
(18)学問分野 2(副学問分野)	心理学関連
(18)学問分野 3(副学問分野)	社会学関連
(20)教材・教科書	履修者と相談の上、決定する。

(21)参考文献	必要に応じて紹介する。
(22)成績評価方法及び採点基準	論文講読や研究発表の進捗について、教員・履修者双方の相互評価による。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	文献購読や発表・ディスカッションを軸に展開する。
(25)留意点・予備知識	特になし
(26)オフィスアワー	事前連絡がある限りは随時対応する。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	tmasuda@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし

(1)整理番号	28
(2)区分番号	28
(3)科目種別	大学院地域社会研究科
(4)授業科目名〔英文名〕	地域社会と家族・ライフコース[Local community and Life course of Family]
(5)対象学年	1～3年次
(6)必修・選択	選択
(7)単位	2
(8)学期	前期／後期
(9)曜日・時限	調整の上、決定
(10)担当教員(所属)	高瀬 雅弘(教育学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル5
(14)授業としての具体的な到達目標	○現代における地域社会や家族の変容を、ライフコースアプローチに基づき分析する能力を身につける。
(15)授業の概要	社会の変容と家族・個人の人生の関係性を捉える社会学的な視点のひとつに、ライフコース・アプローチがある。本講義では、ライフコース・アプローチの諸概念と研究の実例を学びながら、「青森の(または東北の)人びとの人生」を通して、地域社会のありようを捉える可能性について論じる。
(16)授業の内容予定	第1回 オリエンテーション 第2回 ライフコースアプローチとは何か 第3回 家族の変容 第4回 人生の物語 第5回 養育と妊娠 第6回 知識と感情 第7回 戦争 第8回 労働者と家族 第9回 若者から大人への移行 第10回 移民労働者とキャリア 第11回 地域再生と区長制 第12回 農村社会学 第13回 社会学再考 第14回 青森の人生 第15回 総括討論
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	事前にテキストを精読しておくこと。また適宜参考文献を参照し、理解を深めること。
(18)学問分野1(主学問分野)	社会学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	教育学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	歴史学関連
(20)教材・教科書	岩上真珠・池岡義孝・大久保孝治編著, 2017, 『変容する社会と社会学——家族・ライフコース・地域社会』学文社
(21)参考文献	授業中に適宜紹介する。
(22)成績評	授業への参加度(文献報告とディスカッションに意欲的に取り組んでいるか。評価全体の50%)および期末レポ

評価方法及び採点基準	ー ト（論理的かつ実証的にまとめられているか。同50%）をもって評価する。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	講義および文献購読による演習形式で行う。
(25)留意点・予備知識	開講時間帯は受講者との調整により決定する。
(26)オフィスアワー	初回オリエンテーションの際に提示する。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	初回オリエンテーションの際に提示する。
(28)その他	特になし

地域社会研究科

(1)整理番号	29
(2)区分番号	29
(3)科目種別	大学院地域社会研究科
(4)授業科目名〔英文名〕	演習 [Seminars]
(5)対象学年	1～3年次
(6)必修・選択	必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	調整の上、決定
(10)担当教員(所属)	佐々木 純一郎 (地域社会研究科)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル5
(14)授業としての具体的到達目標	○地域における社会問題の現状把握とその課題解決能力及び実践能力を養う。 ○問題・課題解決のための柔軟な思考能力を養う。
(15)授業の概要	地域経営の大きな問題は、少子化・高齢化により発生する新たな社会的課題への対応策です。この対応策が、ソーシャル・エンタープライズやソーシャル・イノベーション・クラスターです。受講生の関心に応じて、青森県内のNPOである、NPOひろだりサーチの受託研究への参加を行ないます。このようにしてNPOや企業と大学との産学連携について、実践的な地域貢献を重視します。あわせて、多様な主体の連携により成り立つ地域経営について教育研究を行います。
(16)授業の内容予定	【過年度の実績による予定です】 第1回 イン트로ダクション 第2回 地域経営とソーシャル・エンタープライズ (1) 第3回 地域経営とソーシャル・エンタープライズ (2) 第4回 地域経営とソーシャル・エンタープライズ (3) 第5回 NPOとソーシャル・イノベーション・クラスター 第6回 中間組織とソーシャル・イノベーション・クラスター 第7回 一般企業とソーシャル・イノベーション・クラスター 第8回 地域間連携とソーシャル・イノベーション・クラスター 第9回 中間試験 第10回 地域経営のケース・スタディ (1) 第11回 地域経営のケース・スタディ (2) 第12回 地域経営のケース・スタディ (3) 第13回 地域経営のケース・スタディ (4) 第14回 地域経営のケース・スタディ (5) 第15回 地域経営のケース・スタディ (6) 第16回 期末試験
(17)準	自分の研究テーマを中心として予習する他に、日頃から広範に情報収集しておくとい良いでしょう。

備学習 (予 習・復 習)等 の内容	
(18)学 問分野 1(主学 問分野)	経営学関連
(18)学 問分野 2(副学 問分野)	経済学関連
(18)学 問分野 3(副学 問分野)	-
(20)教 材・教 科書	例、山崎朗 編著 (2019) 『地域産業のイノベーションシステム 集積と連携が生む都市の経済』学芸出版社などを相談して選びます。
(21)参 考文献	授業で紹介します。
(22)成 績評価 方法及 び採点 基準	平常評価（授業への参加度）:30% 中間評価（試験）:35% 期末評価（試験）:35%
(23)授 業形式	演習
(24)授 業形 態・授 業方法	演習形式ですが、受講生のみなさんの主体的な授業となるよう、毎回積極的に教員が質問してそれに答えていただく予定です。 また、受講生の関心に応じて、青森県内のNPOである、NPOひろだいいリサーチの受託研究への参加を行ないます。
(25)留 意点・ 予備知 識	予備知識は問われません。関連授業を並行して受講なさると学習効果が高まります。
(26)オ フィス アワー	月曜日-金曜日、8時半から9時まで。教育学部四階
(27)E メール アドレ ス・HP アドレ ス	sasajun@hirosaki-u.ac.jp NPOひろだいいリサーチ: http://www.hirodai-r.org/home/
(28)そ の他	特になし

(1)整理番号	30
(2)区分番号	30
(3)科目種別	大学院地域社会研究科
(4)授業科目名 〔英文名〕	演習 [Seminars]
(5)対象学年	1年次
(6)必修・選択	必修
(7)単位	4
(8)学期	通年
(9)曜日・時限	調整の上、決定
(10)担当教員(所属)	黄 孝春(人文社会科学部)
(11)地域志向科目	地域志向科目
(12)難易度(レベル)	レベル5
(14)授業としての 具体的到達目標	○青森県りんご産業をフードバリューチェーンという視点からとらえ、それが直面している問題点を的確に分析し、解決法を提示していく力を養う。
(15)授業の概要	青森県のりんご産業について、育種・栽培・流通・加工・サポーティングなどの分野から考察したうえで、世界のりんご産業との比較において青森県のりんご産業が持つ強みと弱み、今後の行方について検討します。
(16)授業の内容予定	授業の進め方は、履修者と相談の上、30回で終了するよう決定する。 取り扱う内容は以下のとおり。 世界のりんご産業 アメリカ、中国、ニュージーランド、EUなどの主産地における品種開発、栽培、流通、消費 日本のりんご産業 日本におけるりんごの品種開発、栽培、流通、加工、輸出、サポーティング
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	関連の課題を提示して事前に調べてもらいます。
(18)学問分野 1(主学問分野)	経済学関連
(18)学問分野 2(副学問分野)	経営学関連
(18)学問分野 3(副学問分野)	-
(20)教材・教科書	カーペンター・神田・黄編著『グローバル下のリンゴ産業―世界と青森』弘前大学出版会。
(21)参考文献	随時プリントを配布します。
(22)成績評価方法及び採点基準	発表等により総合的に評価します。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	指定文献を事前に読んだうえで、討議方式で行います。
(25)留意点・予備知識	地元の新聞に出てくる関連ニュースを読んで欲しい。
(26)オフィスアワー	水曜日12:00-13:00
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	huang@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし

地域社会研究科

(1)整理番号	31
(2)区分番号	31
(3)科目種別	大学院地域社会研究科
(4)授業科目名〔英文名〕	演習 [Seminars]
(5)対象学年	1年次
(6)必修・選択	必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	調整の上、決定
(10)担当教員(所属)	森 樹男 (人文社会科学部)
(11)地域志向科目	地域志向科目
(12)難易度(レベル)	レベル5
(14)授業としての具体的到達目標	○地域の発展について、ローカルな視点だけでなく、グローバルな視点からも理解する。
(15)授業の概要	地域の企業が発展するにあたって、その地域に存在している地域特有の知をどのように活用していくのか、また、域外の企業が進出先の地域において存在している地域特有の知をいかに取り込み、競争優位につなげていくのか、グローバルな視点とリージョナルな視点から研究していきます。
(16)授業の内容予定	第1回 イン트로ダクション 第2回～14回 受講者による発表、事例報告など 第15回 まとめ ただし、進行状況により変更もあります。
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	予習：事前に報告内容をまとめ、発表の準備をしてください。 復習：発表に対するコメントや質問について再検討してみてください。
(18)学問分野1(主学問分野)	経営学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(20)教材・教科書	特になし
(21)参考文献	特になし
(22)成績評価方法及び採点基準	報告内容や授業への関与の状況により総合的に判断します。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	
(25)留意点・予備知識	特になし

(26)オフィス アワー	木曜日 17:40~18:30 事前にメールで連絡があれば、その都度対応
(27)Eメール アドレス・HP アドレス	mori@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし

(1)整理番号	32
(2)区分番号	32
(3)科目種別	大学院地域社会研究科
(4)授業科目名〔英文名〕	演習 [Seminars]
(5)対象学年	1年次
(6)必修・選択	必修
(7)単位	4
(8)学期	通年
(9)曜日・時限	調整の上、決定
(10)担当教員(所属)	李 永俊(人文社会科学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル5
(14)授業としての具体的な到達目標	○経済学の観点で、地域労働市場の実態と課題を分析し、そのメカニズムを説明できる能力を身につける。
(15)授業の概要	公表データや独自で行うアンケート調査のデータなどを用いて、青森県や北東北、東北などの地域労働市場の現状や課題について考察を行う。
(16)授業の内容予定	授業の進め方は履修者と相談の上、 30回で終了するよう決定する。
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	選定された文献の読み込み、レジュメ作成、データの整理、プログラムの作成などの準備が必要である。
(18)学問分野1(主学問分野)	経済学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(20)教材・教科書	履修者のレベルに合わせて、選定する。
(21)参考文献	必要に応じて紹介する。
(22)成績評価方法及び採点基準	文献の読み込み、レジュメ、プレゼンテーション、ディスカッションなどを総合して評価する。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	演習形式
(25)留意点・予備知識	特になし
(26)オフィスアワー	毎週水曜日 10時00分～12時00分
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	y.jlee@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし

(1)整理番号	33
(2)区分番号	33
(3)科目種別	大学院地域社会研究科
(4)授業科目名〔英文名〕	演習 [Seminars]
(5)対象学年	1年次
(6)必修・選択	必修
(7)単位	4
(8)学期	通年
(9)曜日・時限	調整の上、決定
(10)担当教員(所属)	飯島 裕胤(人文社会科学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル5
(14)授業としての具体的到達目標	○応用経済学的手法を使い、受講者自らの研究を行う能力を身につける。
(15)授業の概要	応用経済学的手法にもとづいて、研究を行ってまいります。また、そのための研究サーベイ(論文の講読を含む)を行ってまいります。
(16)授業の内容予定	受講者と相談の上、 30回で終了するよう 決定します。
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	通常の演習と同様です。研究のための準備や執筆等を行ってまいります。
(18)学問分野1(主学問分野)	経済学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	経営学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	法学関連
(20)教材・教科書	授業中に紹介します。
(21)参考文献	授業中に紹介します。
(22)成績評価方法及び採点基準	研究の進展により判断します。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	論文の講読と研究発表が主になります。
(25)留意点・予備知識	特になし
(26)オフィスアワー	月曜日11:30-12:30
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	iijima(at)hirosaki-u.ac.jp ※(at)は@に置き換えてください
(28)その他	特になし

(1)整理番号	34
(2)区分番号	34
(3)科目種別	大学院地域社会研究科
(4)授業科目名〔英文名〕	演習 [Practical works for Physical Fitness]
(5)対象学年	2年次
(6)必修・選択	必修
(7)単位	4
(8)学期	通年
(9)曜日・時限	平成31年度は開講しない
(10)担当教員(所属)	戸塚 学 (教育学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル5
(14)授業としての具体的到達目標	
(15)授業の概要	
(16)授業の内容予定	
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	
(18)学問分野1(主学問分野)	健康科学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(20)教材・教科書	
(21)参考文献	
(22)成績評価方法及び採点基準	
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	
(25)留意点・予備知識	
(26)オフィスアワー	
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	
(28)その他	

(1)整理番号	35
(2)区分番号	35
(3)科目種別	大学院地域社会研究科
(4)授業科目名〔英文名〕	演習 [Seminars]
(5)対象学年	1年次
(6)必修・選択	必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	調整の上、決定
(10)担当教員(所属)	石川 善朗 (教育学部)
(11)地域志向科目	地域志向科目
(12)難易度(レベル)	レベル5
(14)授業としての具体的到達目標	○青森県地域を設定して、特徴ある製品開発の課題を解決する過程で課題探究能力を養う。 ○地域社会が持つ課題を特定し、デザインマーケティングの手法で行う新商品開発についての知識を習得する。
(15)授業の概要	青森県における消費動向などや現状存在する産業を調査抽出し、これらを組み合わせつつ新商品開発の研究をまとめ実際の商品のシミュレーションを行う。県内各地の特色なども生かしつつ、最後は資料をまとめてデザインマーケティングのためのプレゼンテーションを作成し発表を行う。
(16)授業の内容予定	以下を行う。内容は適宜変更する可能性がある。 <ul style="list-style-type: none"> Ⓢ第1回 ガイダンス、売り込む商品の場所と製品を特定する。 Ⓢ第2回 特定した場所の調査 Ⓢ第3回 特定した場所の調査 Ⓢ第4回 特定した場所の人々の行動調査 Ⓢ第5回 特定した商品の販売形態の調査 Ⓢ第6回 マーケティング調査企画書、立案作成 A4サイズ Ⓢ第7回 マーケティング調査企画書、発表 Ⓢ第8回 販売形態の考案 Ⓢ第9回 店舗展開の考案(無店舗、通販も含む) Ⓢ第10回 販売促進企画書、立案作成 A3サイズ提出 Ⓢ第11回 販売促進企画書にそって宣伝媒体を決定 Ⓢ第12回 宣伝媒体デザインを考案 Ⓢ第13回 プレゼンテーション素案を考察 Ⓢ第14回 プレゼンテーション作成 Ⓢ第15回 プレゼンテーション発表、講評
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	予習：適宜指示を行うのでその課題を調査検討しておく。 復習：授業内容の検討を行う。
(18)学問分野1(主学問分野)	芸術関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(20)教材・教科書	特になし、講義の中で指示を行う。
(21)参考文献	特になし、講義の中で指示を行う。
	平常授業(発表など) : 50%

(22)成績評価方法及び採点基準	最終プレゼンテーション : 50%
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	講義を行いながら, 課題について資料を作成する。
(25)留意点・予備知識	特になし
(26)オフィスアワー	平日の11:50~12:40
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	hirozen@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし

地域社会研究科

(1)整理番号	36
(2)区分番号	36
(3)科目種別	大学院地域社会研究科
(4)授業科目名 〔英文名〕	演習 [Seminars]
(5)対象学年	1～3年次
(6)必修・選択	必修
(7)単位	2
(8)学期	前期／後期
(9)曜日・時限	調整の上、決定
(10)担当教員 (所属)	長南 幸安（教育学部）
(11)地域志向科目	地域志向科目
(12)難易度（レベル）	レベル5
(14)授業としての 具体的到達目標	○地域の産業や企業を分析・評価する能力を身につける。
(15)授業の概要	北日本・青森・津軽などの地域の企業や産業を分析することで、なぜその地域ではならなかったのか、その背景にある技術とはどのようなものなのかなど地域と科学・技術の関係性を調査・研究する。その考察を基に新たな地域振興について考察する。
(16)授業の内容 予定	テーマに関しては、履修者の能力・興味・関心などを考慮し選定する。授業の進め方も選定したテーマによって履修者と相談の上、15回で終了できるように決定する。
(17)準備学習 (予習・復習) 等の内容	予習はテーマについての事前調査 復習は演習時に出された課題や調査事項の検討
(18)学問分野 1(主学問分野)	学際・新領域
(18)学問分野 2(副学問分野)	-
(18)学問分野 3(副学問分野)	-
(20)教材・教科書	特になし
(21)参考文献	特になし
(22)成績評価方法 及び採点基準	レポート及び発表内容
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・ 授業方法	演習形式
(25)留意点・予 備知識	特になし
(26)オフィスア ワー	月～金 8：00～8：30
(27)Eメールア ドレス・HPア ドレス	E-mail: cho@hirosaki-u.ac.jp HPアドレス: http://siva.cc.hirosaki-u.ac.jp/rika/kagaku/chonan/index.html
(28)その他	特になし

地域社会研究科

(1)整理 番号	37
(2)区分 番号	37
(3)科目 種別	大学院地域社会研究科
(4)授業 科目名 〔英文 名〕	演習 [Regional industrial development]
(5)対象 学年	1～3年次
(6)必 修・選 択	必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜 日・時 限	調整の上、決定
(10)担 当教員 (所 属)	内山 大史 (地域社会研究科)
(11)地 域志向 科目	-
(12)難 易度 (レベ ル)	レベル5
(14)授 業とし ての具 体的到 達目標	○国内外の産学官連携制度と歴史を理解したうえで、自らが地域産業振興に寄与できる高度職業人材であることを認識し行動する指針を作成する能力を身につける。
(15)授 業の概 要	「産学官連携」に主眼をおいた国内外の様々な制度、事例等について調査を行い、課題・成果の把握を行う。また、「学」側の核となる研究室が関与する共同研究プロジェクトへの参加等、実践の場を経験しながら「産学官」各々の役割と責任について分析し、新規施策の提言へとつなげる。必要に応じて、リエゾン、知的財産、契約、組織等「産学官連携」に密接に関連する分野の高度専門人とのディスカッションの場を用意する。各プロジェクト事例では、地域産業振興に係る実際の活動に触れることになる。
(16)授 業の内 容予定	第1、2回 : 演習の概要および産学官連携の現状について 第3～8回 : 地域産業振興に係るプロジェクト事例1 第9～14回 : 地域産業振興に係るプロジェクト事例2 第15、16回 : 演習の総括
(17)準 備学習 (予 習・復 習)等 の内容	[予習]各グループ回の冒頭には各テーマに関する予備的な学習が必要です。 [復習]各グループ回修了後、具体的な案件の確認や課題等探索が必要です。
(18)学 問分野	学際・新領域

1(主学 問分野)	
(18)学 問分野 2(副学 問分野)	-
(18)学 問分野 3(副学 問分野)	-
(20)教 材・教 科書	教科書は使用されません。講義中、適宜プリント等が配布されます。
(21)参 考文献	特になし
(22)成 績評価 方法及 び採点 基準	事例ごとのレポートにより評価します。
(23)授 業形式	演習
(24)授 業形 態・授 業方法	対話形式およびプロジェクト参加形式
(25)留 意点・ 予備知 識	特になし
(26)オ フィス アワー	月曜日12～13時ですが、具体的な日時については事前にメールで確認してください。
(27)E メール アドレ ス・HP アドレ ス	daishi@hirosaki-u.ac.jp
(28)そ の他	特になし

(1)整理番号	38
(2)区分番号	38
(3)科目種別	大学院地域社会研究科
(4)授業科目名〔英文名〕	演 習 [Seminars]
(5)対象学年	1～3年次
(6)必修・選択	必修
(7)単位	4
(8)学期	通年
(9)曜日・時限	平成31年度は開講しない
(10)担当教員(所属)	大倉 邦夫(人文社会科学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル5
(14)授業としての具体的到達目標	
(15)授業の概要	
(16)授業の内容予定	
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	
(18)学問分野1(主学問分野)	-
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(20)教材・教科書	
(21)参考文献	
(22)成績評価方法及び採点基準	
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	
(25)留意点・予備知識	
(26)オフィスアワー	
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	
(28)その他	

(1)整理番号	39
(2)区分番号	39
(3)科目種別	大学院地域社会研究科
(4)授業科目名〔英文名〕	演習 [Seminars]
(5)対象学年	1年次
(6)必修・選択	必修
(7)単位	4
(8)学期	通年
(9)曜日・時限	7・8時限（調整の上、決定）
(10)担当教員（所属）	平井 太郎（地域社会研究科）
(11)地域志向科目	地域志向科目
(12)難易度（レベル）	レベル5
(14)授業としての具体的到達目標	○青森県を中心とした地域を素材として、持続可能性の軸とした課題探究能力を養う。 ○地域社会の実態を多面的に把握する多様な調査方法論についての知識を習得する。 ○方法論的な知識を土台として、政策や実践を企画・立案する能力を養う。
(15)授業の概要	受講者の研究実践報告を検討する。
(16)授業の内容予定	受講者の研究実践報告を検討する。 授業の進め方は、履修者と相談の上、30回で終了するよう決定する。
(17)準備学習（予習・復習）等の内容	[予習]出された課題に取り組む。 [復習]出された課題に取り組む。
(18)学問分野1(主学問分野)	社会学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(20)教材・教科書	"Action Research in Policy Analysis"(Bartels&Wittmayer編著、2018年、Routledge)
(21)参考文献	特になし
(22)成績評価方法及び採点基準	授業への参加度、発表内容を踏まえ、評価する。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	演習と討議
(25)留意点・予備知識	特になし
(26)オフィスアワー	of-hirai@nifty.comに問い合わせること
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	of-hirai@nifty.com
(28)その他	特になし

(1)整理番号	40
(2)区分番号	40
(3)科目種別	大学院地域社会研究科
(4)授業科目名〔英文名〕	演習 [Seminars]
(5)対象学年	1年次
(6)必修・選択	必修
(7)単位	2
(8)学期	前期／後期
(9)曜日・時限	相談の上、決定
(10)担当教員（所属）	佐藤 和之（人文社会科学部）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル5
(14)授業としての具体的な到達目標	○青森県の方言を中心として、日本の言語変容過程についての課題発見能力を養う。 ○地域社会で使用される方言と共通語の実態を多面的に把握する多様な調査方法論についての知識を習得する。 ○方法的な知識を土台として、言語政策や実践を企画・立案する能力を養う。
(15)授業の概要	受講者の研究実践報告を検討する。
(16)授業の内容予定	受講者の研究実践報告を検討する。 授業の進め方は、履修者と相談の上、15回で終了するよう決定する。
(17)準備学習（予習・復習）等の内容	毎回、課題を課す。
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	社会学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	教育学関連
(20)教材・教科書	適宜、資料を配付する。
(21)参考文献	適宜、文献や論文を適宜紹介する。
(22)成績評価方法及び採点基準	授業への取組み、発表内容を総合して評価を行う。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	演習及び討議
(25)留意点・予備知識	特になし
(26)オフィスアワー	研究室に在室のときは随時可能です。 火曜日11時50分から13時00分は確実に相談にのることができます。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	http://human.cc.hirosaki-u.ac.jp/kokugo/
(28)その他	特になし

(1)整理番号	41
(2)区分番号	41
(3)科目種別	大学院地域社会研究科
(4)授業科目名〔英文名〕	演習 [Seminars]
(5)対象学年	1年次
(6)必修・選択	必修
(7)単位	2
(8)学期	前期／後期
(9)曜日・時限	調整の上、決定する。
(10)担当教員（所属）	関根 達人（人文社会科学部）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル5
(14)授業としての具体的到達目標	○地域の文化資源を生かした歴史的街づくりに関する知識を習得する。
(15)授業の概要	弘前市を例に、文化資源を生かした歴史的街づくりについて、どのような取り組みがなされているか学びます。
(16)授業の内容予定	授業の進め方は、履修者と相談の上、15回で終了するよう決定する。 取り扱う内容は以下のとおり。 1. 史跡津軽氏城跡弘前城跡・堀越城跡の保護・調査と整備・活用 2. 弘前市内の文化財建造物の保護と活用 3. 弘前市内の無形・有形民俗文化財の保護と活用 4. 「北海道・北東北の縄文遺跡群」の世界遺産登録に向けた取り組み
(17)準備学習（予習・復習）等の内容	毎回、事前に調べたレポートの提出を求めます。
(18)学問分野1(主学問分野)	考古学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	歴史学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	博物館学関連
(20)教材・教科書	特にありません。
(21)参考文献	授業の中で指示します。
(22)成績評価方法及び採点基準	授業への参加度と提出資料で成績評価を行います。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	受講者の発表+講義
(25)留意点・予備知識	特になし
(26)オフィスアワー	水曜日 1・2時限目
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	sekine@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	開講日時は受講者の希望に沿って相談に応じます。

地域社会研究科

(1)整理番号	42
(2)区分番号	42
(3)科目種別	大学院地域社会研究科
(4)授業科目名〔英文名〕	演習 [Seminars]
(5)対象学年	1～3年次
(6)必修・選択	必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	平成31年度は開講しない
(10)担当教員(所属)	山田 巖子(人文社会科学部)
(11)地域志向科目	
(12)難易度(レベル)	レベル5
(14)授業としての具体的到達目標	
(15)授業の概要	
(16)授業の内容予定	
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	
(18)学問分野1(主学問分野)	-
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(20)教材・教科書	
(21)参考文献	
(22)成績評価方法及び採点基準	
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	
(25)留意点・予備知識	
(26)オフィスアワー	
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	
(28)その他	

地域社会研究科

(1)整理番号	43
(2)区分番号	43
(3)科目種別	大学院地域社会研究科
(4)授業科目名 〔英文名〕	演習 [Seminars]
(5)対象学年	全学年
(6)必修・選択	必修
(7)単位	4
(8)学期	通年
(9)曜日・時限	調整の上、決定
(10)担当教員 (所属)	杉山 祐子 (人文社会科学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度 (レベル)	レベル5
(14)授業としての の具体的到達目標	地域社会研究における生態人類学・社会生態学的アプローチへの理解を深める
(15)授業の概要	この演習では、環境と人間活動との相互作用に強い関心を払い、フィールドワークに基づく実証的な研究を展開してきた生態人類学・社会生態学的アプローチにもとづく諸研究に焦点を当てて、文献等の検討を進めます。
(16)授業の内容 予定	1~2講 インTRODクシヨN 3~14講 文献講読およびディスカッション 15講 総合討論
(17)準備学習 (予習・復習)等 の内容	指定した文献を事前に読み込んで論点を整理するとともに、関連文献にも目を通してディスカッションを豊かにする準備をすること
(18)学問分野 1(主学問分野)	文化人類学関連
(18)学問分野 2(副学問分野)	社会学関連
(18)学問分野 3(副学問分野)	
(20)教材・教科 書	受講者の関心を考慮し、受講者との相談によって選定する
(21)参考文献	授業中に適宜紹介する
(22)成績評価方 法及び採点基準	授業への参加（事前準備、文献紹介の内容、ディスカッションへの積極的参加）による。必要に応じてレポートを課す場合がある
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・ 授業方法	文献紹介をもとにした演習形式
(25)留意点・予 備知識	とくになし
(26)オフィスア ワー	ガイダンス時に受講者と相談
(27)Eメールアド レス・HPアドレ ス	yukos[at]hirosaki-u. ac. jp
(28)その他	とくになし

地域社会研究科

(1)整理番号	44
(2)区分番号	44
(3)科目種別	大学院地域社会研究科
(4)授業科目名〔英文名〕	演習 [Practical works for biodiversity]
(5)対象学年	1～3年次
(6)必修・選択	必修
(7)単位	4
(8)学期	通年
(9)曜日・時限	履修者と相談の上決定
(10)担当教員(所属)	大高 明史 (教育学部)
(11)地域志向科目	地域志向科目
(12)難易度(レベル)	レベル5
(14)授業としての具体的到達目標	○文献を使って湖沼や河川の生物群集を同定する能力を身につける。 ○群集構造を数量的に解析し、他と比較しながら考察できる能力を身につける。
(15)授業の概要	生物群集の多様性の把握に関する演習。特定の地域の湖沼や河川を対象に環境や生物群集に関する現地調査や文献調査を行い、一連の解析を通して生物群集の多様性の把握を試みる。また、その結果を他の地域と比較検討することによって地域性の抽出を行う。解析には、標本の分類学的観察や環境要因の物理的、化学的分析、群集や個体群データの統計解析などを含む。平成25年度は、白神山地、十二湖を演習の対象とする。
(16)授業の内容予定	10回分：白神山地・津軽十二湖湖沼群における野外調査。現場での生物の採集と環境項目の測定と実験室での科学分析を含む。 10回分：プランクトンと底生動物の観察。文献を用いた同定作業や標本作製、計数。実験室で行う。 10回分：群集の数値解析と進行状況により、変更もあり得る。
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	対象とする地域や生物群集について、あらかじめ調べて臨むこと。また、演習中に浮かび上がった課題については、事後に各種の文献を用いて考察する。
(18)学問分野1(主学問分野)	細胞レベルから個体レベルの生物学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	水圏応用科学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	環境保全対策関連
	教科書は用いない。

(20)教材・教科書	
(21)参考文献	Bronmark and Hansson著, 占部他訳. 湖と池の生物学. 生物の適応から群集理論・保全まで. 共立出版 大高明史. フナの森の湖沼群. 弘大ブックレット, 弘前大学出版会 他に, 図鑑類や論文などを演習時に多数紹介します。
(22)成績評価方法及び採点基準	複数の調査・実験観察レポートの成果をもとに, 総合的に判断する。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	野外調査や実験実習を主体とし, 討論を交える。
(25)留意点・予備知識	特になし
(26)オフィスアワー	月曜9・10時限
(27)メールアドレス・HPアドレス	大高明史 (教育学部1-23) . ohataka@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし

(1)整理番号	45
(2)区分番号	45
(3)科目種別	大学院地域社会研究科
(4)授業科目名 〔英文名〕	演習 [Doctoral Seminar]
(5)対象学年	1～3年次
(6)必修・選択	必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	集中講義
(10)担当教員 (所属)	今田 匡彦 (教育学部)
(11)地域志向科目	地域志向科目
(12)難易度 (レベル)	レベル5
(14)授業としての の具体的到達目標	○サウンド・エデュケーションの指導者としての能力を身につける。
(15)授業の概要	サウンドウォークによる音環境への立ち会い方、基調音 (Keynote Sound)、信号音 (Sound Signal)、標識音 (Soundmark)、音事象 (Sound Event) などの概念によるサウンドスケープの分析法、及び教育現場での実践を学ぶ。
(16)授業の内容 予定	1) サウンドウォーク 2) 基調音 3) 信号音 4) 標識音 5) 音事象 6) サウンド・マップ 7) 音の記録 8) アレクサンダー・テクニーク 9) 舞踊 10) 音楽 11) 形式 12) 内容 13) 様式 14) 音と言葉 15) ミメーシス
(17)準備学習 (予習・復習) 等 の内容	講義中に適宜指示する。集中講義のため具体的な時間は設定しない。
(18)学問分野 1(主学問分野)	芸術関連
(18)学問分野 2(副学問分野)	思想関連
(18)学問分野 3(副学問分野)	教育学関連
(20)教材・教科 書	今田匡彦『哲学音楽論：音楽教育とサウンドスケープ』（恒星社厚生閣） R. マリー・シェーファー&今田匡彦『音さがしの本』増補版（春秋社） R. マリー・シェーファー『世界の調律』（平凡社） スーザン・ソントグ『反解釈』（ちくま学芸文庫）
(21)参考文献	水村美苗『日本語が亡びるとき』（筑摩書房） エドワード・サイード『音楽のエラボレーション』（みすず書房） スーザン・ソントグ『反解釈』（ちくま学芸文庫） 高橋悠治『音の静寂 静寂の音』（平凡社） ロラン・バルト『第三の意味』（ちくま学芸文庫） マルクス・ガブリエル『なぜ世界は存在しないのか』（講談社）
(22)成績評価方 法及び採点基準	タームペーパーにより評価する。(100%)
(23)授業形式	演習
	講義+演習

(24)授業形態・ 授業方法	
(25)留意点・予 備知識	特になし
(26)オフィスア ワー	メールにてアポイントを取ること
(27)Eメールアド レス・HPアドレ ス	timada@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし

(1)整理番号	46
(2)区分番号	46
(3)科目種別	大学院地域社会研究科
(4)授業科目名〔英文名〕	演習 [Seminars]
(5)対象学年	1～3年次
(6)必修・選択	必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時間	調整の上、決定
(10)担当教員(所属)	小岩 直人(教育学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル5
(14)授業としての具体的な到達目標	○任意の地域において、地形を扱う既存研究を理解する。 ○その地域の地形について、説明できる能力を身につける。
(15)授業の概要	地形発達に関する文献を熟読し、その研究の意義および問題点について議論をします。さらに、調査地域の地形図の読図、空中写真判読を行った上で、現地調査を実施します。現地調査においては地形測量や地形・地質の観察など地形学的な調査手法を習得し、そこで得られた試料を室内において整理・分析を行う予定です。
(16)授業の内容予定	第1回 ガイダンス 第2回～5回 空中写真判読・文献講読 第6回～10回 現地調査 第11回～14回 室内における分析(粒度分析・テフラ分析) 第15回 まとめ
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	授業の復習、および講義時に配布される論文等を熟読することが必要となります。
(18)学問分野1(主学問分野)	地理学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	地球惑星科学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(20)教材・教科書	特に使用しません。
(21)参考文献	講義時に紹介します。
(22)成績評価方法及び採点基準	地形分類図等の演習結果(40%)、およびレポート(60%)
(23)授業形式	演習

(24)授業形態・授業方法	演習
(25)留意点・予備知識	特になし
(26)オフィスアワー	水曜日10:20~11:50
(27)メールアドレス・HPアドレス	koiwa@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし

(1)整理番号	47
(2)区分番号	47
(3)科目種別	大学院地域社会研究科
(4)授業科目名 〔英文名〕	演習 [Seminars]
(5)対象学年	1～3年次
(6)必修・選択	必修
(7)単位	4
(8)学期	通年
(9)曜日・時限	調整の上、決定
(10)担当教員 (所属)	土井 良浩 (地域社会研究科)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度 (レベル)	レベル5
(14)授業としての の具体的到達目標	○市民を中心とした、多様な主体によるまちづくり (地域政策策定と実行) に必要な知見を構築するための研究手法を、具体的取り組みやプロジェクトへの関与を通じて体得する。
(15)授業の概要	市民・行政・NPO・企業等の多様な主体が地域政策の形成及び実行に関与してゆくための実践的手法を考究する。 受講生は、行政、市民、NPOに加え、大学や民間企業等による協働・連携の具体的な取り組みやプロジェクトに参画・関与し、その歴史的経緯や実態の把握、課題の発見、代替案の構築等の作業と、その定期的な報告を行う。
(16)授業の内容 予定	第1回 インTRODクシヨソ 第2、3回 受講生の問題関心の確認、参画するプロジェクトの選定など 第4～13回 受講生によるフィールド調査の報告とディスカッション 第14、15回 博士論文の構成案等の検討
(17)準備学習 (予習・復習) 等 の内容	調査計画、実施した調査の報告用のレジュメを作成する。
(18)学問分野 1(主学問分野)	建築学関連
(18)学問分野 2(副学問分野)	-
(18)学問分野 3(副学問分野)	-
(20)教材・教科 書	特になし
(21)参考文献	受講生と個別に議論する中で必要に応じて紹介する。 ※教員の研究室にて閲覧可能
(22)成績評価方 法及び採点基準	報告やディスカッションの充実度による。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・ 授業方法	プロジェクトへの参加、受講生による報告とディスカッション
(25)留意点・予 備知識	特になし
(26)オフィスア ワー	定常的な日時設定はしない。 面会が必要であれば、Eメールで連絡すること
(27)Eメールアド レス・HPアドレ ス	Eメールアドレス: doi★hirosaki-u.ac.jp ★のところを“アットマーク”に変更してください。

地域社会研究科

(1)整理番号	48
(2)区分番号	48
(3)科目種別	大学院地域社会研究科
(4)授業科目名〔英文名〕	演習 [Seminars]
(5)対象学年	1年次
(6)必修・選択	必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	調整の上、決定
(10)担当教員(所属)	長谷河 亜希子 (人文社会科学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル5
(14)授業としての具体的到達目標	○競争法分野の問題に関して、基礎的知識の修得に留まらず、研究論文を読みこなしたうえで分析し、私見を述べる能力を身につける。
(15)授業の概要	競争法と知的財産法」「規制産業（電気・通信・航空など）と競争法」「下請企業と競争法」「フランチャイズ・システムと競争法」といったように、競争法とかわりのある諸分野で生じている諸問題について、論文・審判決等を検討するといった方法で、理解を深めることを課題とする。
(16)授業の内容予定	受講生の専門に合わせて、相談の上、15回で終了するよう決定する。
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	論文・判例の読み込み、報告へ向けてのレジュメの作成。
(18)学問分野1(主学問分野)	法学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(20)教材・教科書	適宜提示します。
(21)参考文献	適宜提示します。
(22)成績評価方法及び採点基準	発表、発言内容による。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	受講生からの報告・質疑応答。
(25)留意点・予備知識	特になし
(26)オフィス	火曜日7・8時限。研究室は人文棟3階の323研究室

アワー	
(27)Eメール アドレス・HP アドレス	—
(28)その他	特になし

(1)整理番号	49
(2)区分番号	49
(3)科目種別	大学院地域社会研究科
(4)授業科目名 〔英文名〕	演習 [Seminars]
(5)対象学年	1～3年次
(6)必修・選択	必修
(7)単位	4
(8)学期	通年
(9)曜日・時限	相談のうえ決定
(10)担当教員 (所属)	金目 哲郎 (人文社会科学部)
(11)地域志向 科目	-
(12)難易度 (レベル)	レベル5
(14)授業としての具体的到達目標	○現代(地方)財政に関する研究課題を独力で設定し分析する能力を身につける。 ○各人が設定する研究課題を学術論文として執筆するための素地を身につける。
(15)授業の概要	財政学・地方財政論に関する先行研究をサーヴェイし、論点を整理したうえで、現代(地方)財政が直面する問題や改革課題を展望していきます。
(16)授業の内容 内容予定	担当教員が提示するテーマ(例えば、教育、環境、社会保障、税制、地方財政調整、財政民主主義、財政健全化等)について、受講者が当該テーマに関連した先行研究(学術論文、専門書)を選定し、これらのサーヴェイを行います。以下は、提示するテーマの例です。 第1回～第5回 先行研究の報告(テーマの例:地方財政の歴史的展開) 第6回～第10回 先行研究の報告(テーマの例:日本の地方財政調整制度の動向) 第11回～第15回 先行研究の報告(テーマの例:地方自治体による環境政策) ただし、受講生の問題意識や選定する文献等により、シラバスと実際の内容と異なる場合があります。
(17)準備学習 (予習・復習)等の内容	報告者は適切な文献や資料を選定し、これらの論点をまとめたレジュメを準備します。
(18)学問分野 1(主学問分野)	経済学関連
(18)学問分野 2(副学問分野)	-
(18)学問分野 3(副学問分野)	-
(20)教材・教科書	報告する先行研究の題材は、基本的には受講生自らが選定することが望ましいですが、必要に応じて担当教員が助言します。
(21)参考文献	授業中に適宜に紹介します。
(22)成績評価 方法及び採点 基準	レジュメの報告:80% 討論の内容:20% 上記を合算して、最終的な成績評価を行う予定です。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	受講者によるレジュメ報告に基づき、討論します。
(25)留意点・予備知識	受講生の関心や問題意識を考慮したうえで、テーマを提示する予定です。
(26)オフィス アワー	水曜日12時～13時(他の曜日・時限でも可)
(27)Eメール	kaname-t(at)hirosaki-u.ac.jp

アドレス・HP アドレス	※(at)は@に置き換えてください。
(28)その他	開講する曜日・時限は、履修者と相談のうえ決定することも可能です。

(1)整理番号	50
(2)区分番号	50
(3)科目種別	大学院地域社会研究科
(4)授業科目名〔英文名〕	演習 [Seminars]
(5)対象学年	1年次
(6)必修・選択	必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	集中
(10)担当教員(所属)	北原 啓司(教育学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル5
(14)授業としての具体的な到達目標	○学位を取得するために必要となる地域実態の把握のための演習を通して、調査手法を体得する。
(15)授業の概要	○地方自治体における地域政策および住民活動等に関係の深い教員の特性を踏まえ、津軽地方の様々な自治体をモデルにしたフィールド研究を実施する。 ○演習の形式は、当該自治体の職員とのディスカッションやワークショップを含むものとする。 ○テーマによっては、自治体職員及び地域プランナーとの共同研究の形態をとりながら、実践的に活用可能なアウトプットの作成を目標とする。
(16)授業の内容予定	○受講者が学位取得のために必要な調査に関する方法論の検討、および調査対象者とのワークショップ的な演習を実施する。 授業の進め方は、履修者と相談の上、15回で終了するよう決定する。
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	特になし 適宜指示する。
(18)学問分野1(主学問分野)	学際・新領域
(18)学問分野2(副学問分野)	建築学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(20)教材・教科書	適宜指示する。
(21)参考文献	適宜指示する。
(22)成績評価方法及び採点基準	提出されるレポートを評価対象とする。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	受講者との1対1の講義を基本として、その後外部における演習も実施する。
(25)留意点・予備知識	特になし
(26)オフィスアワー	水曜日 12:00~13:00
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	mxg02632@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし

(1)整理番号	51
(2)区分番号	51
(3)科目種別	大学院地域社会研究科
(4)授業科目名〔英文名〕	演習 [Seminars]
(5)対象学年	
(6)必修・選択	必修
(7)単位	4
(8)学期	通年
(9)曜日・時限	平成31年度は開講しない
(10)担当教員(所属)	小瑤 史朗(教育学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル5
(14)授業としての具体的到達目標	
(15)授業の概要	
(16)授業の内容予定	
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	
(18)学問分野1(主学問分野)	-
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(20)教材・教科書	
(21)参考文献	
(22)成績評価方法及び採点基準	
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	
(25)留意点・予備知識	
(26)オフィスアワー	
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	
(28)その他	

(1)整理番号	52
(2)区分番号	52
(3)科目種別	大学院地域社会研究科
(4)授業科目名〔英文名〕	演習 [Seminars]
(5)対象学年	1～3年次
(6)必修・選択	必修
(7)単位	4
(8)学期	通年
(9)曜日・時限	受講者と相談・調整の上決定する
(10)担当教員(所属)	増田 貴人(教育学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル5
(14)授業としての具体的到達目標	○臨床発達心理学的アプローチを用いて研究する能力を身につける。
(15)授業の概要	臨床発達心理学研究法にもとづいて、文献購読やレビュー作成、論文執筆のための研究法の検討等を行う。
(16)授業の内容予定	以下の内容を基本とするが、履修者の研究テーマに基づくため、相談の上、決定する。 1) ガイダンス 2) 臨床発達心理学の概要 3) 研究の背景 4) 研究の意義 5) 研究倫理 6) 理論枠の検討 7) 研究方法の検討(質問調査) 8) 研究方法の検討(実験) 9) 研究方法の検討(質的調査) 10) 分析 11) 結果の提示 12) 考察 13) 課題と研究の限界 14) 論文の執筆 15) まとめ
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	通常の演習と同様、決まった授業内容に沿って、研究準備や文献執筆等を行う。
(18)学問分野1(主学問分野)	教育学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	心理学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	社会学関連
(20)教材・教科書	履修者と相談の上、決定する。
(21)参考文献	必要に応じて紹介・貸与等行う。
(22)成績評価方法及び採点基準	論文購読や研究発表の進捗について、教員・履修者双方の相互評価による。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	演習
(25)留意点・予備知識	不安な点は事前に相談のこと
(26)オフィスアワー	事前に連絡がある限りは随時対応する。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	tmasuda@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし

(1)整理番号	53
(2)区分番号	53
(3)科目種別	大学院地域社会研究科
(4)授業科目名〔英 文名〕	演 習 [Seminars]
(5)対象学年	1～3年次
(6)必修・選択	必修
(7)単位	4
(8)学期	通年
(9)曜日・時限	調整の上、決定
(10)担当教員(所 属)	高瀬 雅弘(教育学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベ ル)	レベル5
(14)授業としての具 体的到達目標	○地域社会への社会的なアプローチについての理解を深める。
(15)授業の概要	社会学、なかでも地域社会学、家族社会学、教育社会学、歴史社会学に関する文献を履修者の関心に沿って選定し、その内容を批判的に検討する。
(16)授業の内容予定	第1回：オリエンテーション 第2回～第15回：文献講読と討議
(17)準備学習(予 習・復習)等の内容	事前にテキストを精読しておくこと。また適宜参考文献を参照し、理解を深めること。
(18)学問分野1(主学 問分野)	社会学関連
(18)学問分野2(副学 問分野)	教育学関連
(18)学問分野3(副学 問分野)	歴史学関連
(20)教材・教科書	履修者との相談により決定する。
(21)参考文献	授業中に適宜紹介する。
(22)成績評価方法及 び採点基準	授業への参加度(文献報告とディスカッションに意欲的に取り組んでいるか。評価全体の50%)および期末レポート(論理的かつ実証的にまとめられているか。同50%)をもって評価する。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業 方法	演習形式。文献購読を中心とする。
(25)留意点・予備知 識	開講時間帯は受講者との調整により決定する。
(26)オフィスアワー	初回オリエンテーションの際に提示する。
(27)Eメールアドレ ス・HPアドレス	初回オリエンテーションの際に提示する。
(28)その他	特になし

(1)整理番号	54
(2)区分番号	54
(3)科目種別	大学院地域社会研究科
(4)授業科目名〔英文名〕	特別研究[Individual research]
(5)対象学年	1～3年次
(6)必修・選択	必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	調整の上、決定
(10)担当教員(所属)	佐々木 純一郎(地域社会研究科)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル5
(14)授業としての具体的な到達目標	○地域経営について研究を深める。
(15)授業の概要	演習を発展させ、受講生の研究テーマを発展させるよう、その目的に合致した講義内容を展開し、研究を支えることを目標とします。 演習の実践的内容から得られたデータなどについて、学問的な知見として昇華できるように研究を深めます。
(16)授業の内容予定	【過年度の実績による予定です】 第1回 イントロダクション 第2回 地域経営と国策 第3回 地域経営と自治体 第4回 地域経営と住民 第5回 地域経営とNPO 第6回 地域経営と中間組織 第7回 地域経営と企業 第8回 地域間連携と国際連携 第9回 中間試験 第10回 地域経営のケース・スタディ(1) 第11回 地域経営のケース・スタディ(2) 第12回 地域経営のケース・スタディ(3) 第13回 地域経営のケース・スタディ(4) 第14回 地域経営のケース・スタディ(5) 第15回 地域経営のケース・スタディ(6) 第16回 期末試験
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	教科書を中心として予習する他に、日頃から情報収集しておくとい良いでしょう。
(18)学問分野1(主学問分野)	経営学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	経済学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(20)教材・教科書	例、石原慎士他編著(2017)『産業復興の経営学』同友館などを相談して選びます。
(21)参考文献	授業で紹介します。
(22)成績評価方法及び採点基準	平常評価(授業への参加度):30% 中間評価(試験):35% 期末評価(試験):35%
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	演習形式ですが、受講生のみなさんの主体的な授業となるよう、毎回積極的に教員が質問してそれに答えていただく予定です。 また、受講生の関心に応じて、企業調査等を実施します。
(25)留意点・予備知識	予備知識は問われません。関連授業を並行して受講なさると学習効果が高まります。
(26)オフィスアワー	月曜日-金曜日、8時半から9時まで。教育学部四階
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	sasajun@hirosaki-u.ac.jp NPOひろだいいりサーチ: http://www.hirodai-r.org/home/
(28)その他	特になし

地域社会研究科

(1)整理番号	55
(2)区分番号	55
(3)科目種別	大学院地域社会研究科
(4)授業科目名〔英文名〕	特別研究[Special lectures]
(5)対象学年	1年次
(6)必修・選択	必修
(7)単位	4
(8)学期	通年
(9)曜日・時限	調整の上、決定
(10)担当教員(所属)	黄 孝春 (人文社会科学部)
(11)地域志向科目	地域志向科目
(12)難易度(レベル)	レベル5
(14)授業としての具体的な到達目標	○地場産業の活性化の課題と条件を理解し、そこで習得した専門知識に基づき、政策・経営に立案する実践力を身につける。
(15)授業の概要	地場産業の活性化なくしては地域経済の活性化はありえないといわれています。伝統産地が長く生き続けてきた背後には、厳しい現実の中を生き残っていくための経営の論理があるはず。伝統工芸技術の継承や技能の伝承が、産地に埋め込まれた社会的要因や歴史的要因とどのようにかかわって、伝統産地は生き続けてきたのか、伝統産地を支える人々はいかなる役割を果たしてきたのか、経営戦略や経営組織の視点から考察します。
(16)授業の内容予定	授業の進め方は、履修者と相談の上、30回で終了するよう決定する。 取り扱う内容は以下のとおり。 ビジネスシステムと伝統産業 生活共同体による人材育成 過剰な競争の抑制 伝統産地と企業家活動 競争が支える協働の仕組み 業界団体の役割
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	関連の課題を提示して事前に調べてもらいます。
(18)学問分野1(主学問分野)	経営学関連
(18)学問分野	経済学関連

2(副学問分野)	
(18)学問分野 3(副学問分野)	
(20)教材・教科書	山田幸山『伝統産地の経営学』有斐閣
(21)参考文献	随時プリントを配布します。
(22)成績評価方法及び採点基準	発表等によって評価します。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	事前に指定した文献等を読んだうえで、討議方式で行います。場合によって一緒に会社訪問することもあります。
(25)留意点・予備知識	先行研究に留意してください。
(26)オフィスアワー	水曜日12時—13時
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	huang@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし

(1)整理番号	56
(2)区分番号	56
(3)科目種別	大学院地域社会研究科
(4)授業科目名〔英文名〕	特別研究[Special lectures]
(5)対象学年	2年次
(6)必修・選択	必修
(7)単位	4
(8)学期	通年
(9)曜日・時限	調整の上、決定
(10)担当教員(所属)	森 樹男(人文社会科学部)
(11)地域志向科目	地域志向科目
(12)難易度(レベル)	レベル5
(14)授業としての具体的な到達目標	○地域の発展について、ローカルな視点だけでなく、グローバルな視点からも理解する。
(15)授業の概要	地域企業と地域に存在する特有の知の関係について、演習の内容を掘り下げる形で展開する。その際、より具体的なケースを分析する形で研究していきます。
(16)授業の内容予定	第1回 インTRODクシヨn 第2回～14回 受講者による発表、事例報告など 第15回 まとめ ただし、進行状況により変更もあります。
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	予習：事前に報告内容をまとめ、発表の準備をしてください。 復習：発表に対するコメントや質問について再検討してみてください。
(18)学問分野1(主学問分野)	経営学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(20)教材・教科書	特になし
(21)参考文献	特になし
(22)成績評価方法及び採点基準	報告内容や授業への関与の状況により総合的に判断します。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	
(25)留意点・予備知識	特になし
(26)オフィスアワー	木曜日 17:40～18:30 事前にメールで連絡があれば、その都度対応
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	mori@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし

(1)整理番号	57
(2)区分番号	57
(3)科目種別	大学院地域社会研究科
(4)授業科目名〔英文名〕	特別研究[Special lectures]
(5)対象学年	1年次
(6)必修・選択	必修
(7)単位	4
(8)学期	通年
(9)曜日・時限	調整の上、決定する
(10)担当教員(所属)	李 永俊(人文社会科学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル5
(14)授業としての 具体的到達目標	○地域労働市場に関する最新の研究手法や論点を学習し、新たな課題を発見し、研究論文の作成するための能力を身につける。
(15)授業の概要	履修者の関心にあった研究テーマに関する先行研究のレビュー、基礎理論や分析方法についての学習、調査・分析、分析結果の発表などを行う。
(16)授業の内容予定	受講者と相談の上、30回で終了するよう決定する。
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	研究テーマの発見、文献のレビュー、プレゼンテーションの準備などを事前に行うこと。
(18)学問分野1(主学問分野)	経済学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(20)教材・教科書	必要に応じて指示する。
(21)参考文献	必要に応じて指示する。
(22)成績評価方法及び採点基準	文献の読み込み、レジюме、プレゼンテーション、ディスカッションなどを総合して評価する。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	ゼミナール形式
(25)留意点・予備知識	特になし
(26)オフィスアワー	毎週水曜日 10時00分～12時00分
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	y.jlee@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし

(1)整理番号	58
(2)区分番号	58
(3)科目種別	大学院地域社会研究科
(4)授業科目名〔英文名〕	特別研究[Special lectures]
(5)対象学年	1年次
(6)必修・選択	必修
(7)単位	4
(8)学期	通年
(9)曜日・時限	調整の上、決定
(10)担当教員(所属)	飯島 裕胤(人文社会科学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル5
(14)授業としての具体的な到達目標	○応用経済学の一分野として、企業の経済学を理解する。
(15)授業の概要	企業の経済学について、理論構造に立ち入った講義を行います。応用経済学の手法を使って、地域の企業を分析し、論文を書く方のための授業です。
(16)授業の内容予定	受講者と相談の上、30回で終了するよう決定します。
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	地域企業に関する、企業の経済学的な分析を発表してもらいます。その準備を行ってもらいます。
(18)学問分野1(主学問分野)	経済学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	経営学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	法学関連
(20)教材・教科書	講義中に紹介します。
(21)参考文献	講義中に紹介します。
(22)成績評価方法及び採点基準	発表内容で採点します。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	講義、演習と受講者の発表があります。
(25)留意点・予備知識	特になし
(26)オフィスアワー	月曜日11:30-12:30
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	iiijima(at)hirosaki-u.ac.jp ※(at)は@に置き換えてください
(28)その他	特になし

地域社会研究科

(1)整理番号	59
(2)区分番号	59
(3)科目種別	大学院地域社会研究科
(4)授業科目名〔英文名〕	特別研究[Directed Individual Studies]
(5)対象学年	2～3年次
(6)必修・選択	必修
(7)単位	4
(8)学期	通年
(9)曜日・時限	平成31年度は開講しない
(10)担当教員(所属)	戸塚 学(教育学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル5
(14)授業としての具体的到達目標	
(15)授業の概要	
(16)授業の内容予定	
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	
(18)学問分野1(主学問分野)	健康科学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(20)教材・教科書	
(21)参考文献	
(22)成績評価方法及び採点基準	
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	
(25)留意点・予備知識	
(26)オフィスアワー	
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	
(28)その他	

地域社会研究科

(1)整理番号	60
(2)区分番号	60
(3)科目種別	大学院地域社会研究科
(4)授業科目名 〔英文名〕	特別研究[Special lectures]
(5)対象学年	1年次
(6)必修・選択	必修
(7)単位	4
(8)学期	通年
(9)曜日・時限	調整の上、決定
(10)担当教員 (所属)	石川 善朗（教育学部）
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル5
(14)授業としての 具体的到達目標	○博士論文執筆のための調査・研究・論文執筆方法に関する知識を習得する。
(15)授業の概要	指導する学生の研究内容、研究進捗状況に合わせ、相談の上、内容を検討しながら実施する。 産業デザイン開発の手法を用いて、地域の商品開発の手法を研究する。カスタマーの嗜好を調査研究し、色彩学や素材研究を通して、地域に於いてどのような商品が好まれるかについて広範囲の分析を行う。その結果を用いて、結論に導く手法を学ぶ。
(16)授業の内容 予定	指導する学生の研究内容、研究進捗状況に合わせ、相談の上、内容を検討しながら30分で終了するよう実施する。
(17)準備学習 (予習・復習) 等の内容	必要に応じて指示する。
(18)学問分野 1(主学問分野)	芸術関連
(18)学問分野 2(副学問分野)	-
(18)学問分野 3(副学問分野)	-
(20)教材・教科書	必要に応じて指示する。
(21)参考文献	必要に応じて指示する。
(22)成績評価方法 及び採点基準	授業への取り組みならびにレポートの内容により成績評価を行う。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・ 授業方法	演習＋講義
(25)留意点・予 備知識	特になし
(26)オフィスア ワー	平日の11:50~12:40
(27)Eメールア ドレス・HPア ドレス	hirozen@hirosaki-u.ac.jp
	特になし

(1)整理番号	61
(2)区分番号	61
(3)科目種別	大学院地域社会研究科
(4)授業科目名〔英文名〕	特別研究[Special lectures]
(5)対象学年	1～3年次
(6)必修・選択	必修
(7)単位	4
(8)学期	通年
(9)曜日・時限	調整の上、決定
(10)担当教員(所属)	長南 幸安(教育学部)
(11)地域志向科目	地域志向科目
(12)難易度(レベル)	レベル5
(14)授業としての具体的到達目標	○新たな地域振興策を提言できるような研究を行う能力を身につける。
(15)授業の概要	演習で得られた成果に基づき、北日本・青森・津軽などの新たな地域振興を考えるとともに、そのためにはどのような科学・技術が必要かの具体案を作成するとともに、その必要な科学・技術の研究を行う。
(16)授業の内容予定	テーマに関しては、履修者の能力・興味・関心などを考慮し選定する。授業の進め方も選定したテーマによって履修者と相談の上、30回で終了できるように決定する。
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	予習はテーマについての事前調査 復習は演習時に出された課題や調査事項の検討
(18)学問分野1(主学問分野)	学際・新領域
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(20)教材・教科書	特になし
(21)参考文献	特になし
(22)成績評価方法及び採点基準	レポート及び発表内容
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	演習形式
(25)留意点・予備知識	特になし
(26)オフィスアワー	月～金 8:00～8:30
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	E-mail: cho@hirosaki-u.ac.jp HPアドレス: http://siva.cc.hirosaki-u.ac.jp/rika/kagaku/chonan/index.html
(28)その他	特になし

(1)整理番号	62
(2)区分番号	62
(3)科目種別	大学院地域社会研究科
(4)授業科目名〔英文名〕	特別研究[Regional industrial development]
(5)対象学年	2年次
(6)必修・選択	必修
(7)単位	4
(8)学期	通年
(9)曜日・時限	調整の上、決定
(10)担当教員(所属)	内山 大史(地域社会研究科)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル5
(14)授業としての具体的な到達目標	○学位論文テーマに深い関連をもつ、新たなサブテーマ候補を設定する能力を身につける。
(15)授業の概要	下記は一例であるが、各人のテーマにより、柔軟に変更する。 大学の「知」を地域に還元する手法として、産学官金連携による種々の取組がなされている。連携の「場」に参加しながら、地域産業振興に関わる、「産、学、官、金」各々の果たすべき役割は何かについて、各セクターの現状と課題についての分析と検討を行い、文章にまとめる作業をしてもらう。
(16)授業の内容予定	テーマによらず、概ね下記のスケジュールで進行する。 第1, 2回 : 特別研究の概要および学位論文テーマについて 第3~9回 : 研究の背景、先行研究等について 第10~16回 : サブテーマの設定と研究手法について 第17~23回 : 研究1 第24~30回 : 研究2 第31, 32回 : とりまとめ
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	必要に応じて指示します。 適宜指示します。
(18)学問分野1(主学問分野)	学際・新領域
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(20)教材・教科書	必要に応じてプリント等を配布します。
(21)参考文献	必要に応じて指示します。
(22)成績評価方法及び採点基準	期末のレポート(とりまとめ)により評価します。
(23)授業形式	演習

(24)授業形態・授業方法	対話形式
(25)留意点・予備知識	特になし
(26)オフィスアワー	月曜日12～13時ですが、具体的な日時については事前にメールで確認してください。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	daishi@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし

(1)整理番号	63
(2)区分番号	63
(3)科目種別	大学院地域社会研究科
(4)授業科目名〔英文名〕	特別研究[Special lectures]
(5)対象学年	1年次
(6)必修・選択	必修
(7)単位	4
(8)学期	通年
(9)曜日・時限	7・8時限（調整の上、決定）
(10)担当教員（所属）	平井 太郎（地域社会研究科）
(11)地域志向科目	地域志向科目
(12)難易度（レベル）	レベル5
(14)授業としての具体的到達目標	○青森県を中心とした地域を素材として、持続可能性の軸とした課題探究能力を養う。 ○地域社会の実態を多面的に把握する多様な調査方法論についての知識を習得する。 ○方法論的な知識を土台として、政策や実践を企画・立案する能力を養う。
(15)授業の概要	受講者の研究実践報告を討議する。
(16)授業の内容予定	受講者の研究実践報告を討議する。 授業の進め方は、履修者と相談の上、30回で終了するよう決定する。
(17)準備学習（予習・復習）等の内容	[予習]出された課題に取り組む。 [復習]出された課題に取り組む。
(18)学問分野1(主学問分野)	社会学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(20)教材・教科書	"Action Research in Policy Analysis"(Bartels&Wittmayer編著、2018年、Routledge刊)
(21)参考文献	特になし
(22)成績評価方法及び採点基準	授業への参加度、発表内容を踏まえ、評価する。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	報告と討議
(25)留意点・予備知識	特になし
(26)オフィスアワー	of-hirai@nifty.comに問い合わせること
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	of-hirai@nifty.com
(28)その他	特になし

(1)整理番号	64
(2)区分番号	64
(3)科目種別	大学院地域社会研究科
(4)授業科目名〔英文名〕	特別研究[Special lectures]
(5)対象学年	1年次
(6)必修・選択	必修
(7)単位	4
(8)学期	通年
(9)曜日・時限	調整の上、決定
(10)担当教員(所属)	佐藤 和之(人文社会科学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル5
(14)授業としての具体的な到達目標	○青森県の方言を中心として、日本の言語変容過程についての課題発見能力を養う。 ○地域社会で使用される方言と共通語の実態を多面的に把握する多様な調査方法論についての知識を習得する。 ○方法論的な知識を土台として、言語政策や実践を企画・立案する能力を養う。
(15)授業の概要	受講者の研究実践報告を討議する。
(16)授業の内容予定	受講者の研究実践報告を討議する。 授業の進め方は、履修者と相談の上、30回で終了するよう決定する。
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	毎回、課題を課す。
(18)学問分野1(主学問分野)	言語学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	社会学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	教育学関連
(20)教材・教科書	適宜、資料を配付する。
(21)参考文献	適宜、文献や論文を適宜紹介する。
(22)成績評価方法及び採点基準	授業への取組み、発表内容を総合して評価を行う。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	報告と討議
(25)留意点・予備知識	特になし
(26)オフィスアワー	研究室に在室のときは随時可能です。 火曜日11時50分から13時00分は確実に相談にのることができます。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	http://human.cc.hirosaki-u.ac.jp/kokugo/
(28)その他	特になし

(1)整理番号	65
(2)区分番号	65
(3)科目種別	大学院地域社会研究科
(4)授業科目名〔英文名〕	特別研究[Special lectures]
(5)対象学年	1年次
(6)必修・選択	必修
(7)単位	4
(8)学期	通年
(9)曜日・時限	調整の上、決定
(10)担当教員(所属)	関根 達人(人文社会科学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル5
(14)授業としての具体的到達目標	○博士論文執筆のための調査・研究・論文執筆方法に関する知識を習得する。
(15)授業の概要	指導する学生の研究内容、研究進捗状況に合わせ、相談の上、内容を検討しながら実施しま す。 研究テーマについての指導を行うとともに、調査方法、研究手法、研究方法、論文の作成方法について指導します。
(16)授業の内容予定	指導する学生の研究内容、研究進捗状況に合わせ、相談の上、内容を検討しながら30回で終了するよう実施します。
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	毎回、課題を課します。
(18)学問分野1(主学問分野)	考古学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	歴史学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	博物館学関連
(20)教材・教科書	特になし
(21)参考文献	授業の中で適宜指示します。
(22)成績評価方法及び採点基準	授業への取り組みならびにレポートの内容により成績評価を行います。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	発表形式の授業です。
(25)留意点・予備知識	特になし
(26)オフィスアワー	水曜日1・2時限目
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	sekine@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	開講日時は受講者の希望に沿って相談に応じます。

地域社会研究科

(1)整理番号	66
(2)区分番号	66
(3)科目種別	大学院地域社会研究科
(4)授業科目名〔英文名〕	特別研究[Special lectures]
(5)対象学年	1～3年次
(6)必修・選択	必修
(7)単位	4
(8)学期	通年
(9)曜日・時限	平成31年度は開講しない
(10)担当教員(所属)	山田 巖子(人文社会科学部)
(11)地域志向科目	
(12)難易度(レベル)	レベル5
(14)授業としての具体的到達目標	
(15)授業の概要	
(16)授業の内容予定	
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	
(18)学問分野1(主学問分野)	-
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(20)教材・教科書	
(21)参考文献	
(22)成績評価方法及び採点基準	
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	
(25)留意点・予備知識	
(26)オフィスアワー	
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	
(28)その他	

地域社会研究科

(1)整理番号	67
(2)区分番号	67
(3)科目種別	大学院地域社会研究科
(4)授業科目名〔英文名〕	特別研究[Special lectures]
(5)対象学年	1年次
(6)必修・選択	必修
(7)単位	4
(8)学期	通年
(9)曜日・時間	調整の上、決定
(10)担当教員(所属)	杉山 祐子(人文社会科学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル5
(14)授業としての具体的な到達目標	○地域社会の諸研究における現在の到達点とその課題を確認し、自分自身の学位論文作成につながる研究テーマを設定し、論文作成準備を進める能力を身につける。
(15)授業の概要	受講者それぞれの関心に従って、検討すべき先行研究をリストアップして講読し、自身の研究テーマの設定に役立てるとともに、それぞれの調査結果の発表、相互検討等を通して、方法論や理論等を自身の考察を深めるために応用することを学ぶ。
(16)授業の内容予定	前期はまず、受講者それぞれの興味関心に基づく仮テーマと研究方法の検討、テーマに関わる先行研究のリストアップと読み込み、各自の調査結果発表、ディスカッションを重ね、後期にむけた研究計画を策定する。後期は自身の調査結果の分析、解釈とともに、先行研究の読み込みを深め、各自の研究テーマに沿った考察を加える。 授業の進め方は、履修者と相談の上、30回で終了するよう決定する。
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	準備として、フィールドノート、文献リストやレジユメの作成がある。充実した討論ができるようにディスカッションのポイントを事前に絞っておくことなどを勧める。
(18)学問分野1(主学問分野)	文化人類学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	社会学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	学際・新領域
(20)教材・教科書	必要に応じて指示
(21)参考文献	適宜選択
(22)成績評価方法及び採点基準	発表、討論、調査結果レジユメ内容、中間または期末レポートなどを総合して評価する。
(23)授業形式	演習
	ゼミナール形式

(24)授業形態・授業方法	
(25)留意点・予備知識	特になし。初回に相談・調整します
(26)オフィスアワー	水曜12:00-12:40（出張等で不在にすることもあります）
(27)メールアドレス・HPアドレス	yukos[at]hirosaki-u. ac. jp
(28)その他	特になし

地域社会研究科

(1)整理番号	68
(2)区分番号	68
(3)科目種別	大学院地域社会研究科
(4)授業科目名〔英文名〕	特別研究[Special lectures]
(5)対象学年	2～3年次
(6)必修・選択	必修
(7)単位	4
(8)学期	通年
(9)曜日・時限	履修者と相談のうえ決定
(10)担当教員(所属)	大高 明史(教育学部)
(11)地域志向科目	地域志向科目
(12)難易度(レベル)	レベル5
(14)授業としての具体的な到達目標	○青森県における森林生態系と水界生態系の特徴を説明できる能力を身につける。 ○人間が自然とこれまでどのように関わってきたかという歴史をふまえ、自然との共生的な人間活動のあり方を提言できる能力を身につける。
(15)授業の概要	森林生態系と水界生態系を対象として、文献や調査によって得られた情報をもとに生物群集と環境との関わりや生物と人間生活との関わりについて解析する。また、人間が自然とこれまでどのように関わってきたかという歴史的な側面についての調査を行い、自然との共生的な人間活動のあり方を考察する。
(16)授業の内容予定	1 4回分. 森林生態系とその利用 白神山地および十和田八甲田地域の森林と水系の特徴を、文献調査や現地視察によって把握し、ビジターセンター職員の講義や聞き取りによって、森林生態系と人々との関わり方の歴史を学習する。加えて、エコツールリズムの可能性と問題点について、実際の参加や聞き取りを通して考える。 1 4回分. 湖沼と海域 水産業が盛んな湖沼である十三湖と小川原湖、栽培漁業に力を入れている陸奥湾について、それぞれの水域生態系能の特徴を、青森県内水面水産試験場や水産総合研究所、東北大学浅虫海洋生物学教育研究センター、浅虫水族館の訪問や文献購読によって把握する。さらに水界生態系の持続可能な利用について文献と聞き取りを通して考察する。 2回分. まとめ 生物多様性と人間生活に関して、提言を含んだ発表会を行い、議論を通してその理解を深める。
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	取り扱う生態系の特徴について、図書やビジターセンターホームページなどによってあらかじめ把握しておくこと。研究施設や社会教育施設の訪問後は、聞き取りの内容を速やかにまとめること。
(18)学問分野1(主学問分野)	個体レベルから集団レベルの生物学と人類学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	環境保全対策関連
(18)学問分野3(副学問分野)	生産環境農学関連
(20)教材・教科書	教科書は用いない。

(21)参考文献	青森県 (2014) 青森県生物多様性戦略 https://www.pref.aomori.lg.jp/nature/nature/tayouseikouhyou.html
(22)成績評価方法及び採点基準	複課題レポート (50%) と論述試験 (50%) で判断する。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	講義と演習, 野外調査やフィールドワーク
(25)留意点・予備知識	特になし
(26)オフィスアワー	月曜9・10時限
(27)メールアドレス・HPアドレス	大高明史 (教育学部1-23) . ohataka@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし

(1)整理番号	69
(2)区分番号	69
(3)科目種別	大学院地域社会研究科
(4)授業科目名〔英文名〕	特別研究[Directed Individual Studies]
(5)対象学年	1～3年次
(6)必修・選択	必修
(7)単位	4
(8)学期	通年
(9)曜日・時限	集中講義
(10)担当教員(所属)	今田 匡彦(教育学部)
(11)地域志向科目	地域志向科目
(12)難易度(レベル)	レベル5
(14)授業としての具体的到達目標	○学際領域としてのサウンドスケープ論を受講生の研究テーマに応用する能力を身につける。
(15)授業の概要	芸術をめぐる諸問題を、サウンドスケープ、音楽、音楽教育、身体、哲学などをキーワードに検証する。
(16)授業の内容予定	<ol style="list-style-type: none"> 1) サウンドスケープ論 2) 構造主義、ポスト構造主義 3) 身体論(アレクサンダー・テクニークを含む) 4) 音楽 5) 言語 7) 記号論 8) 肌理及び艶について 9) 形式;内容;様式について 10) サウンド・エデュケーション 11) 音楽教育 12) 視覚と聴覚 13) シニフィアンとシニフィエ 14) 戯れ 15) 芸術作品
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	講義中に適宜指示する。集中講義のため具体的な時間は設定しない。
(18)学問分野1(主学問分野)	芸術関連
(18)学問分野2(副学問分野)	思想関連
(18)学問分野3(副学問分野)	教育学関連
(20)教材・教科書	講義中に適宜指示する。
(21)参考文献	講義中に適宜指示する。
(22)成績評価方法及び採点基準	タームペーパーにより評価する。(100%)
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	講義+演習
(25)留意点・予備知識	特になし
(26)オフィスアワー	メールにてアポイントを取ること
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	timada@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし

(1)整理番号	70
(2)区分番号	70
(3)科目種別	大学院地域社会研究科
(4)授業科目名〔英文名〕	特別研究[Special lectures]
(5)対象学年	2～3年次
(6)必修・選択	必修
(7)単位	4
(8)学期	通年
(9)曜日・時限	調整の上、決定
(10)担当教員(所属)	小岩 直人(教育学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル5
(14)授業としての具体的な到達目標	○任意の地域において、その地域の地形に関する既存研究をまとめるとともに、地形学的な調査を実施し、地域の地形発達について理解する。
(15)授業の概要	任意の地域、テーマを受講者が選択し、空中写真判読、文献調査、野外調査をふまえた地理学的な研究方法を学ぶ授業になります。
(16)授業の内容予定	第1回 ガイダンス 第2回～6回 空中写真判読に関する講義・演習 第7回～11回 文献購読・地形発達過程に関する講義 第12回～22回 野外調査(集中形式) 第22回～27回 試料分析 第28～29回 成果発表 第30回 まとめ (ただし進行状況により変更もあり得ます。)
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	授業の復習、および講義時に配布される論文等を熟読することが必要です。
(18)学問分野1(主学問分野)	地理学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	地球惑星科学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(20)教材・教科書	講義時に紹介します。
(21)参考文献	講義時に紹介します。
(22)成績評価方法及び採点基準	成果発表による。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	室内での作業、野外調査の結果で、その後の研究方針を定めていきます。
(25)留意点・予備知識	特になし
(26)オフィスアワー	水曜日10:20～11:50
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	koiwa@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし

(1)整理番号	71
(2)区分番号	71
(3)科目種別	大学院地域社会研究科
(4)授業科目名〔英文名〕	特別研究[Special lectures]
(5)対象学年	1～3年次
(6)必修・選択	必修
(7)単位	4
(8)学期	通年
(9)曜日・時限	調整の上、決定
(10)担当教員(所属)	土井 良浩(地域社会研究科)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル5
(14)授業としての具体的な到達目標	〇市民主体のまちづくりや市民を中心とする政策形成の先行研究や方法論に関わる文献を講読し、学術研究のための基盤を身につける。
(15)授業の概要	受講生の問題関心に基づき、市民主体のまちづくりや市民を中心とする政策形成の先行研究や方法論に関わる文献をセレクトして精読し、ディスカッションを通じて理解を深める。
(16)授業の内容予定	第1回 イン트로ダクション(講読文献の検討・決定) 第2～14回 文献講読 第15回 博士論文の構成・進め方等の検討
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	事前に文献を精読し、報告用のレジюмеを作成する。
(18)学問分野1(主学問分野)	建築学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(20)教材・教科書	受講生との話し合いを経て文献を決定する。
(21)参考文献	受講生とのディスカッションの中で必要に応じて紹介する。
(22)成績評価方法及び採点基準	報告やディスカッションの充実度による。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	受講生による報告とディスカッション
(25)留意点・予備知識	特になし
(26)オフィスアワー	定常的な日時設定はしない。 面会が必要であれば、Eメールで連絡すること
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	Eメールアドレス: doi★hirosaki-u.ac.jp ★のところを“アットマーク”に変更してください。
(28)その他	特になし

(1)整理番号	72
(2)区分番号	72
(3)科目種別	大学院地域社会研究科
(4)授業科目名〔英文名〕	特別研究[Special lectures]
(5)対象学年	2年次
(6)必修・選択	必修
(7)単位	4
(8)学期	通年
(9)曜日・時限	調整の上、決定
(10)担当教員(所属)	長谷河 亜希子(人文社会科学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル5
(14)授業としての具体的な到達目標	○民商法・経済法分野の問題に関して、基礎的知識の修得に留まらず、研究論文を読みこなしたうえで分析し、私見を述べる能力を身につける。
(15)授業の概要	民商法分野(含む経済法、知財法、消費者法)に関して、判例・論文を検討し討論を行うことにより、法的正義・衡平について考察を重ねつつ、各自の問題意識をさらに掘り下げる。
(16)授業の内容予定	受講生の専門に合わせて、相談の上、30回で終了するよう決定する。
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	論文・判例の読み込み、報告へ向けてのレジユメの作成。
(18)学問分野1(主学問分野)	法学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(20)教材・教科書	適宜提示します。
(21)参考文献	適宜提示します。
(22)成績評価方法及び採点基準	発表、発言内容による。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	受講生からの報告・質疑応答。
(25)留意点・予備知識	特になし
(26)オフィスアワー	火曜日7・8時限。研究室は人文棟3階の323研究室
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	-
(28)その他	特になし

地域社会研究科

(1)整理番号	73
(2)区分番号	73
(3)科目種別	大学院地域社会研究科
(4)授業科目名〔英文名〕	特別研究[Special lectures]
(5)対象学年	1～3年次
(6)必修・選択	必修
(7)単位	4
(8)学期	通年
(9)曜日・時限	相談のうえ決定
(10)担当教員(所属)	金目 哲郎(人文社会科学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル5
(14)授業としての具体的到達目標	○現代(地方)財政に関する研究課題を独力で設定し分析する能力を身につける。 ○事例研究のための資料やデータの収集整理および分析を独力で行う能力を身につける。
(15)授業の概要	現代(地方)財政について、受講生が研究課題を設定し、具体的な資料やデータに基づく事例研究を行い、これを報告します。
(16)授業の内容予定	各人が設定する研究課題について、報告します。資料やデータに基づき、受講生は「問題提起」、「分析手法・内容」、「結論」といった論文構成を踏まえた事例研究を行います。例えば、自治体の行財政の事例、地域活性化と財政との関係、諸外国の財政構造や分権改革の動向、というように、受講者にテーマ(3つ程度)を設定してもらいます。なお、テーマの設定に際して必要があれば教員が適宜に助言します。 第1回～第5回 研究課題の報告(テーマその1) 第6回～第10回 研究課題の報告(テーマその2) 第11回～第15回 研究課題の報告(テーマその3) ただし、受講生の問題意識や選定するテーマ等により、シラバスと実際の内容と異なる場合があります。
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	報告者は事例研究のための題材を収集・整理し、レジュメを準備します。
(18)学問分野1(主学問分野)	経済学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	政治学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	-

学問分野)	
(20)教材・教科書	特になし
(21)参考文献	授業中に適宜に紹介します。
(22)成績評価方法及び採点基準	レジュメの報告：80% 討論の内容：20% 上記を合算して、最終的な成績評価を行う予定です。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	受講者によるレジュメ報告に基づき、討論します。
(25)留意点・予備知識	事例研究では、必要に応じて地方自治体等の関係機関への訪問調査等を実施することをすすめます。
(26)オフィスアワー	水曜日12時～13時（他の曜日・時限でも可）
(27)メールアドレス・HPアドレス	kaname-t(at)hirosaki-u.ac.jp ※(at)は@に置き換えてください。
(28)その他	開講する曜日・時限は、履修者と相談のうえ決定することも可能です。

地域社会研究科

(1)整理番号	74
(2)区分番号	74
(3)科目種別	大学院地域社会研究科
(4)授業科目名〔英文名〕	特別研究[Special lectures]
(5)対象学年	1年次
(6)必修・選択	必修
(7)単位	4
(8)学期	通年
(9)曜日・時限	不定期
(10)担当教員(所属)	北原 啓司(教育学部)
(11)地域志向科目	地域志向科目
(12)難易度(レベル)	レベル5
(14)授業としての具体的な到達目標	○地域政策において、自らが研究する対象が現在どのように位置づけられているものであり、そこでどのような普遍解を見いだしながら、地域社会に貢献する研究を進める能力を身につける。
(15)授業の概要	○指導する院生自身が抱える研究課題に対して、その研究方法論を確立させていくために、関係する諸領域の文献講読、および外部講師を招いてのディスカッション等を実施する。
(16)授業の内容予定	○受講者の研究スケジュールに合わせて、文献購読および議論を行っていく。 授業の進め方は、履修者と相談の上、30回で終了するよう決定する。
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	講義の復習が、そのまま学位論文作成につながっていくことになる。
(18)学問分野1(主学問分野)	学際・新領域
(18)学問分野2(副学問分野)	建築学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(20)教材・教科書	適宜指示する。
(21)参考文献	適宜指示する。
(22)成績評価方法及び採点基準	成果物としてのレポートで評価する。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	1対1形式の講義を実施していく。
(25)留意点・予備知識	特になし
(26)オフィスアワー	水曜日 12:00~13:00
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	mxg02632@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし

(1)整理番号	75
(2)区分番号	75
(3)科目種別	大学院地域社会研究科
(4)授業科目名〔英文名〕	特別研究[Special lectures]
(5)対象学年	2年次
(6)必修・選択	必修
(7)単位	4
(8)学期	通年
(9)曜日・時限	調整の上、決定
(10)担当教員(所属)	大倉 邦夫(人文社会科学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル5
(14)授業としての具体的な到達目標	○博士論文を執筆するための方法論について理解する。
(15)授業の概要	博士論文を執筆し、まとめていくための方法について解説する。
(16)授業の内容予定	毎回、受講者に自身の博士論文のテーマに関する研究発表を行ってもらい、その内容についてディスカッションしていきます。 授業の進め方は、履修者と相談の上、30回で終了するよう決定します。
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	受講者自身の博士論文のテーマに関係する文献を事前に読み込み、まとめることが求められます。
(18)学問分野1(主学問分野)	経営学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(20)教材・教科書	特になし
(21)参考文献	授業中に紹介します。
(22)成績評価方法及び採点基準	報告内容によって評価します。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	演習形式
(25)留意点・予備知識	特になし
(26)オフィスアワー	金曜日10:20~11:50
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	k_ohkura@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし

地域社会研究科

(1)整理番号	76
(2)区分番号	76
(3)科目種別	大学院地域社会研究科
(4)授業科目名〔英文名〕	特別研究[Special lectures]
(5)対象学年	1～3年次
(6)必修・選択	必修
(7)単位	4
(8)学期	通年
(9)曜日・時限	平成31年度は開講しない
(10)担当教員(所属)	小瑤 史朗(教育学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル5
(14)授業としての具体的到達目標	
(15)授業の概要	
(16)授業の内容予定	
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	
(18)学問分野1(主学問分野)	-
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(20)教材・教科書	
(21)参考文献	
(22)成績評価方法及び採点基準	
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	
(25)留意点・予備知識	
(26)オフィスアワー	
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	
(28)その他	

(1)整理番号	77
(2)区分番号	77
(3)科目種別	大学院地域社会研究科
(4)授業科目名〔英文名〕	特別研究[Special lectures]
(5)対象学年	1～3年次
(6)必修・選択	必修
(7)単位	4
(8)学期	通年
(9)曜日・時限	受講者と相談・調整の上決定する。
(10)担当教員(所属)	増田 貴人(教育学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル5
(14)授業としての具体的な到達目標	○臨床発達心理学に関係する研究課題について、先行研究に基づいた独自の視点または手法、分析をもってその解決をはかるための力を養う。
(15)授業の概要	履修者の研究テーマに沿って、それに関連する背景や分析手法に関する議論、考察の視点を深める。
(16)授業の内容予定	以下を基本とするが、毎回履修者の準備した研究課題について、資料やデータに基づき発表・報告し、教員が必要に応じて適宜助言する。 1) ガイダンス 2) 第一文献の選定 3) 第一文献の購読 4) 資料作成 5) 報告と議論 6) ～9) 第二文献の選定、購読、資料作成、報告と議論 10) ～13) 第三文献の選定、購読、資料作成、報告と議論 14) 総合考察 15) まとめ
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	少しでも研究水準を高めるよう努めること。
(18)学問分野1(主学問分野)	教育学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	心理学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	社会学関連
(20)教材・教科書	履修者と相談の上決定する。
(21)参考文献	必要に応じて紹介・貸与等する。
(22)成績評価方法及び採点基準	研究の進捗に応じて総合的に評価する。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	演習
(25)留意点・予備知識	特になし
(26)オフィスアワー	事前に連絡がある限りは随時対応する。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	増田 : tmasuda@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし

(1)整理番号	78
(2)区分番号	78
(3)科目種別	大学院地域社会研究科
(4)授業科目名 〔英文名〕	特別研究[Special lectures]
(5)対象学年	1～3年次
(6)必修・選択	必修
(7)単位	4
(8)学期	通年
(9)曜日・時限	調整の上、決定
(10)担当教員 (所属)	高瀬 雅弘 (教育学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度 (レベル)	レベル5
(14)授業としての の具体的到達目標	○社会的なアプローチに基づく地域社会研究の論文執筆のための能力を身につける。
(15)授業の概要	受講者の問題関心に基づき、地域社会が直面する諸課題に関する社会的なアプローチを用いた先行研究を購読したうえで、利用可能な資料・データの収集・分析方法を実践的に学び、各自の研究の発展的展開を目指す。
(16)授業の内容 予定	第1回：オリエンテーション 第2回～5回：研究者の問題関心と課題についての検討 第6回～10回：先行研究の収集成果に基づく報告と検討 第11回～15回：研究課題に対応した方法論の検討 第16回～25回：データの収集と分析過程に基づく報告と検討 第26回～30回：論文執筆の状況報告と検討
(17)準備学習 (予習・復習)等 の内容	十分な準備に基づき報告を行うように努めること。
(18)学問分野 1(主学問分野)	社会学関連
(18)学問分野 2(副学問分野)	教育学関連
(18)学問分野 3(副学問分野)	歴史学関連
(20)教材・教科 書	履修者との相談により決定する。
(21)参考文献	授業中に適宜紹介する。
(22)成績評価方 法及び採点基準	授業への参加度（文献報告とディスカッションに意欲的に取り組んでいるか。評価全体の50%）および期末レポート（論理的かつ実証的にまとめられているか。同50%）をもって評価する。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・ 授業方法	演習形式で行う。
(25)留意点・予 備知識	開講時間帯は受講者との調整により決定する。
(26)オフィスア ワー	初回オリエンテーションの際に提示する。
(27)Eメールアド レス・HPアドレ ス	初回オリエンテーションの際に提示する。

